

# 当別町地域公共交通総合連携計画 (素案)

平成 20 年 3 月

当 別 町

# 《 目 次 》

はじめに	1
------	---

## 第1部 当別町の概況

1. 位置、地形、気象	2
2. 人口	3
3. 当別町における地域交通の概要	8
4. 住民の交通に関する調査	27

## 第2部 当別町地域公共交通総合連携計画

1. 当別町地域公共交通総合連携計画の背景と目的	31
2. 当別町における地域交通の課題	32
3. 当別町地域公共交通総合連携計画の内容	33

## 参考資料

1. アンケート調査グラフデータ（第1部「4. 住民の交通に関する調査」）	44
2. 検討の経緯	49
3. 出典	51

## はじめに

現在、日本の公共交通は、モータリゼーションの進展に伴う利用客の減少と人口そのものの減少により、独立採算によって経営を成り立たせる事が困難となっています。

このため、国や地方公共団体等による公的補助制度が多種用意されていますが、昨今の財政事情を鑑みると、現状の補助制度を将来にわたって継続して活用することは困難であると予想されます。

しかし、地球温暖化防止を目的とした「京都議定書」が平成 17 年 2 月 16 日に発行されたことにより、CO<sub>2</sub> 削減に向けたモビリティ・マネジメント (MM) や国民的プロジェクト「チーム・マイナス 6%」の推進など、自家用自動車の使い方や公共交通への転換についての施策が大きく注目され、さらに、これから迎える高齢社会においても、交通弱者を救う公共交通の必要性は、ますますクローズアップされると思われます。

このような状況の中、「元祖」とされている東京都武蔵野市の「ムーバス」を筆頭に、全国の市町村において数多く運行されているコミュニティバスや、新しい交通サービスである需要応答型の交通システムの導入など、地域に密着し実情に合った「地域公共交通」システムが確実に増えてきています。

当別町では、平成 17 年度に「当別町バス交通体系調査事業」を実施し、委員会を設置して町内及び札幌市あいの里地区までを多目的に運行されている複数のバスの一元化について調査・検討を行い、その結果を基に、自動車運送事業の安全・円滑化総合対策事業（国庫補助）を活用し、平成 18 年度から「当別町コミュニティバス（当別ふれあいバス）実証運行事業」を実施しています。

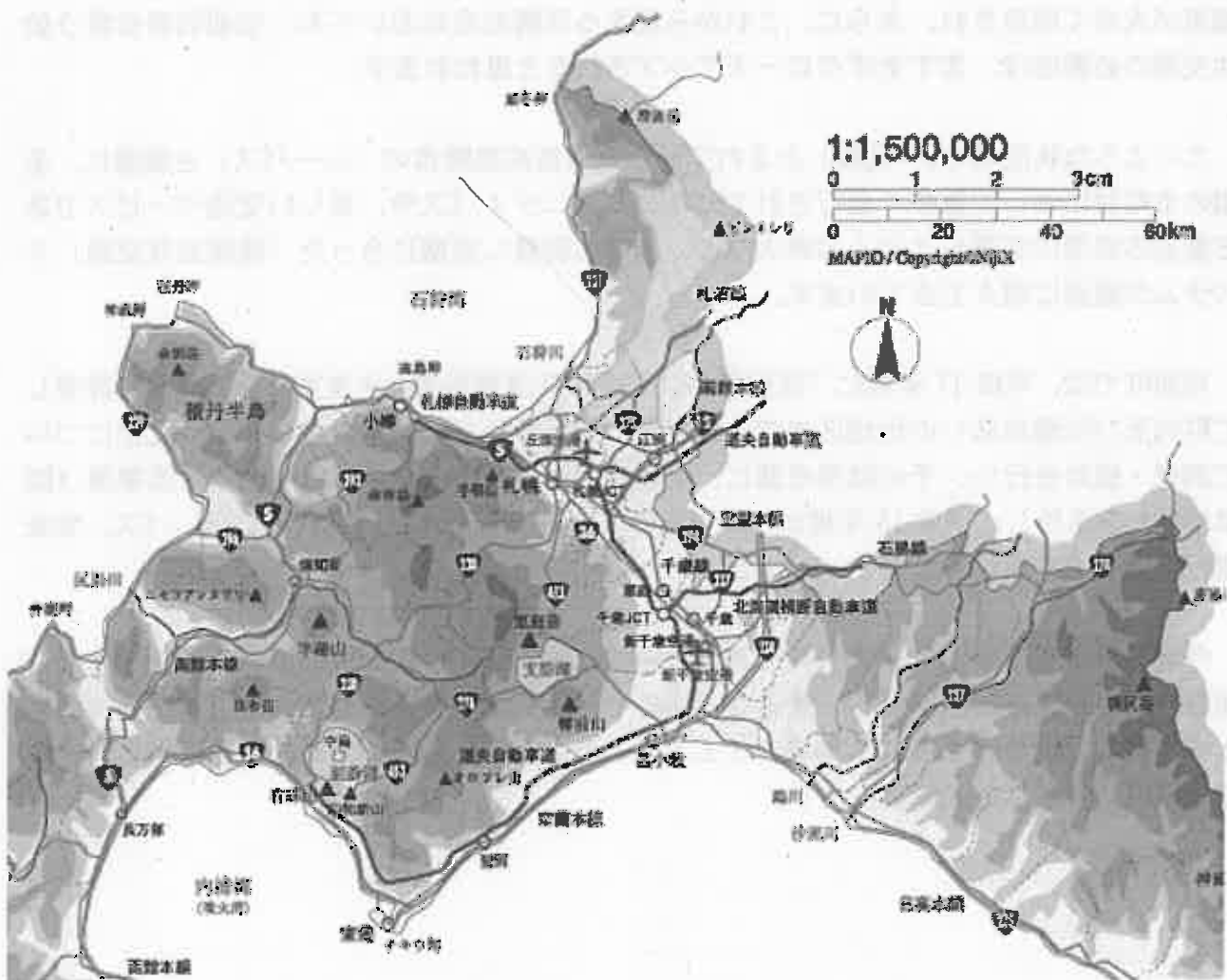
今回策定する「当別町地域公共交通総合連携計画」は、当別ふれあいバスを軸として交通事業者や関係機関が連携し、鉄道など他のモビリティ（移動）も含めた公共交通の活性化を一体的に進めることで、地域コミュニティの活性化にも寄与することを目指し、当別町全域を対象とした計画とします。

# 第1部 当別町の概況

## 1. 位置、地形、気象

当別町は石狩平野のほぼ中央部に位置し、札幌市・石狩市・江別市・新篠津村・月形町・浦臼町・新十津川町に接している。また、面積は422.71km<sup>2</sup>で、東西に26km、南北に47kmと地形は南北に細長く、北部は山林地帯、南部は農地や住宅地が広がる平坦地で、町の南北を石狩川の支流である当別川が貫流している。

年間の最高気温は29.8度、最低気温は-21.5度、累計降雪量は599cm（平成15年）と道内でも寒冷で積雪の多い地域となっている。



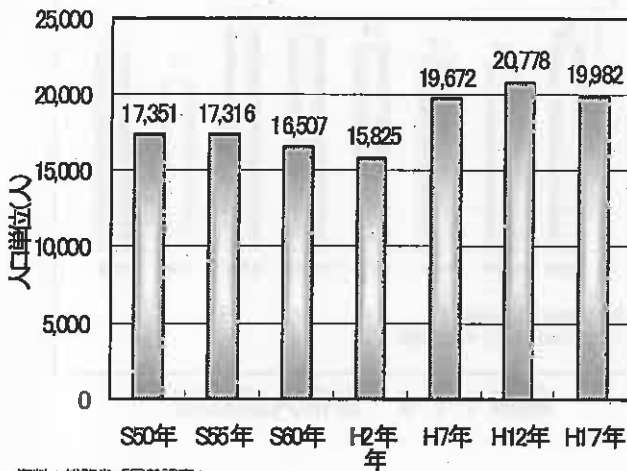
図表1-1-1 当別町の位置

## 2. 人口

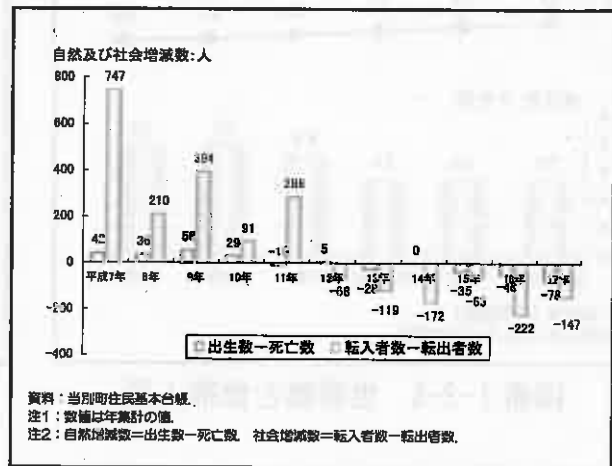
### (1) 人口

#### ■人口は減少に転じる

- ・人口は、昭和63年の札幌大橋の開通に伴い、町内での宅地造成、区画整理の実施、JR札幌線（学園都市線）の増便、広域道路網の整備などから、札幌市への通勤圏として平成2年から平成7年にかけて大幅に増加した。
- ・平成12年には20,778人に達したが、平成12年から転出者数が転入者数を上回ったこと、死亡数が出生数を上回ったことなどにより平成17年には19,982人と減少に転じている。



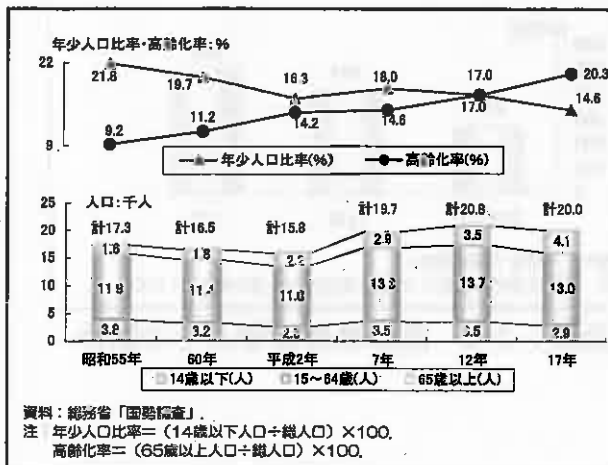
図表 1-2-1 人口の推移



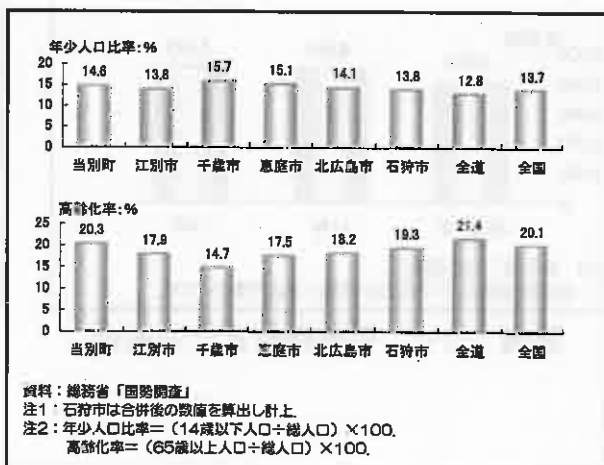
図表 1-2-2 人口の自然増減と社会増減

#### ■年少人口比率は低下傾向、高齢化率は上昇傾向

- ・年少人口比率（14歳以下の人口割合）は低下傾向。平成17年には14.6%。
- ・高齢化率（65歳以上の人口割合）は、年少人口の減少、65歳以上人口の増加などにより高まっており、平成17年には20.3%。
- ・周辺自治体と比較して高齢化が進行している（平成17年）。



図表 1-2-3 年齢3階級別人口

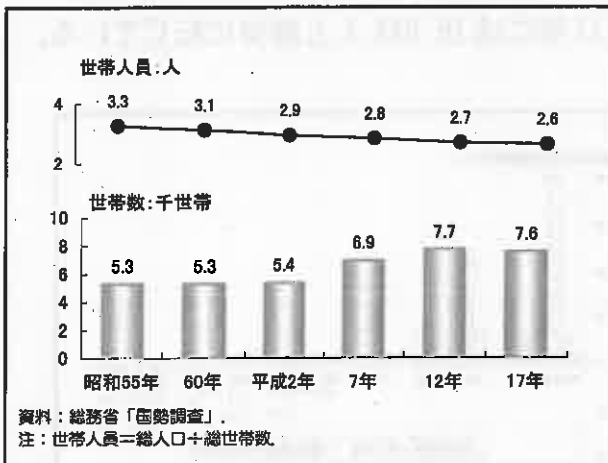


図表 1-2-4 年少人口比率・高齢化比率比較

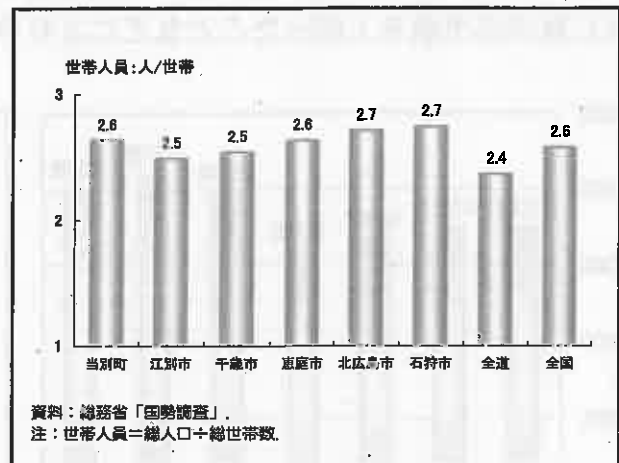
(2) 世帯

■世帯人員は減少傾向

- ・世帯数は、札幌市への通勤圏としての町内への移住などにより、平成2年から平成7年にかけて大幅に増加している。
- ・平成12年には7,723世帯に達したが、平成17年には7,579世帯と人口の減少に比例して減少に転じる。
- ・世帯人員は核家族世帯や高齢単身世帯の増加などにより減少しており、平成17年には2.6人まで低下。



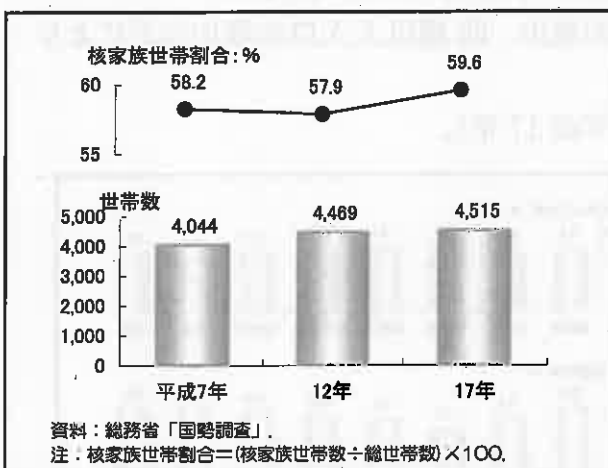
図表 1-2-5 世帯数と世帯人員



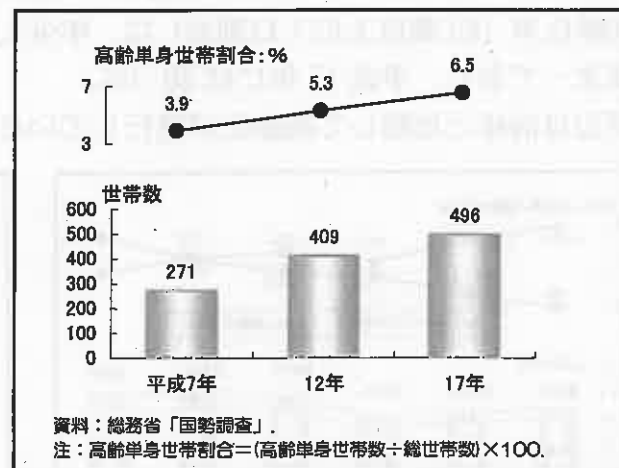
図表 1-2-6 世帯人員比較

■核家族世帯、高齢単身世帯は増加

- ・世帯人員減少の背景にある核家族世帯数は増加しており、核家族世帯割合は平成17年で59.6%。
- ・高齢単身世帯数も増加。高齢単身世帯割合は平成17年で6.5%。



図表 1-2-7 各世帯数とその割合

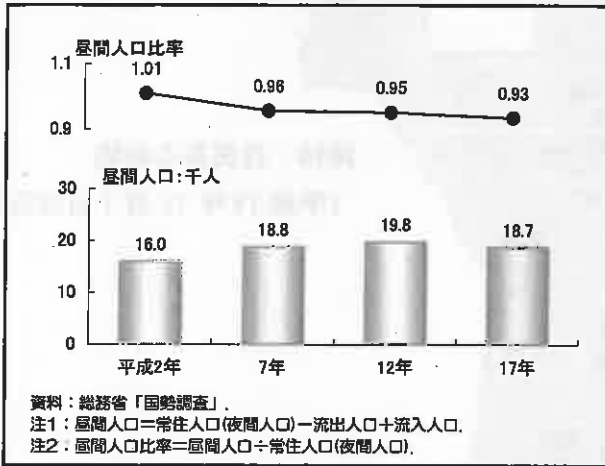


図表 1-2-8 高齢単身世帯とその割合

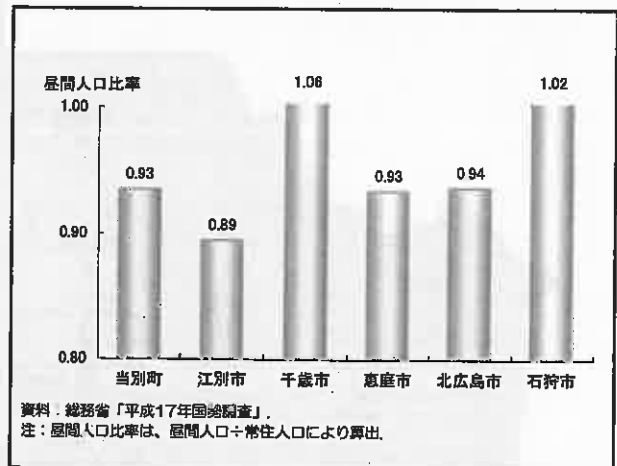
(3) 人口の流入・流出

■ 昼間人口、昼間人口比率は低下

- ・ 昼間人口は、人口に比例して平成2年から平成7年にかけて大幅に増加。平成12年には19,763人に達したが、人口の減少と比例して、平成17年には18,681人と減少に転じる。
- ・ 昼間人口比率（常住人口に占める昼間人口の割合）は、平成2年から平成12年の人口増加期間においても札幌市などへの通勤者数の増加によって低下。平成12年から平成17年にかけては町内事業所の減少などにより低下し、平成17年には0.93。



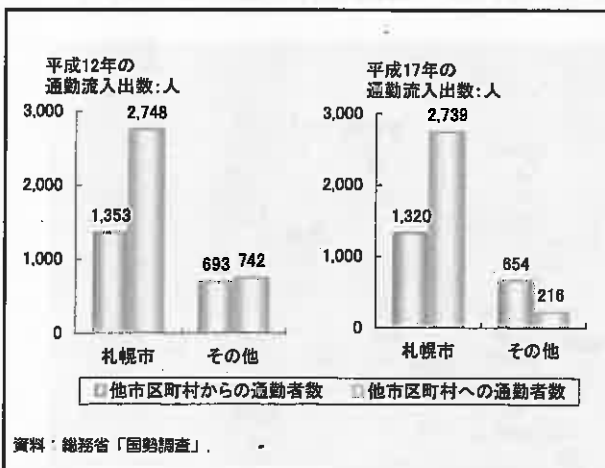
図表 1-2-9 昼間人口・比率



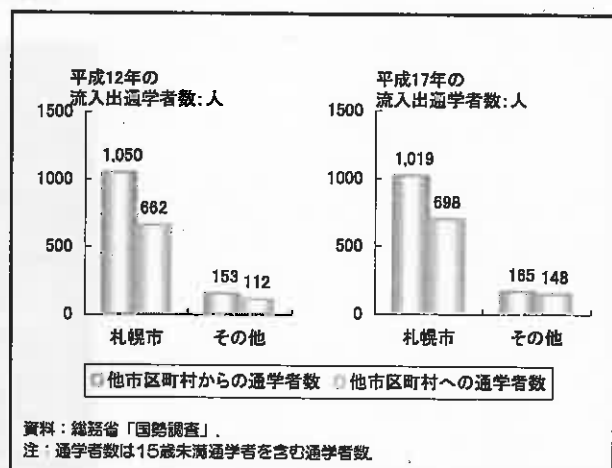
図表 1-2-10 昼間人口比較比率

■ 通勤・通学者は札幌市を中心に流入・流出

- ・ 札幌大橋の開通、JR札幌線（学園都市線）の増便、国道をはじめとした広域道路網の整備などにより、通勤者、通学者ともに札幌市を中心に流入、流出。
- ・ 通勤者は流出超過、通学者は流入超過となっていることから、通勤者の流出超過が昼間人口比率の低下に影響。



図表 1-2-11 通勤者の流入・流出状況



図表 1-2-12 通学者の流入・流出状況

(4) 地区別人口

■市街地の二極化

- ・人口は、JR石狩当別駅、石狩太美駅を中心として二極化しており、当別市街地には人口の約43%を占める8,524人が、太美町には約27%を占める5,059人が居住している。



当別市街地の拡大図（上図の枠で囲んだエリア）

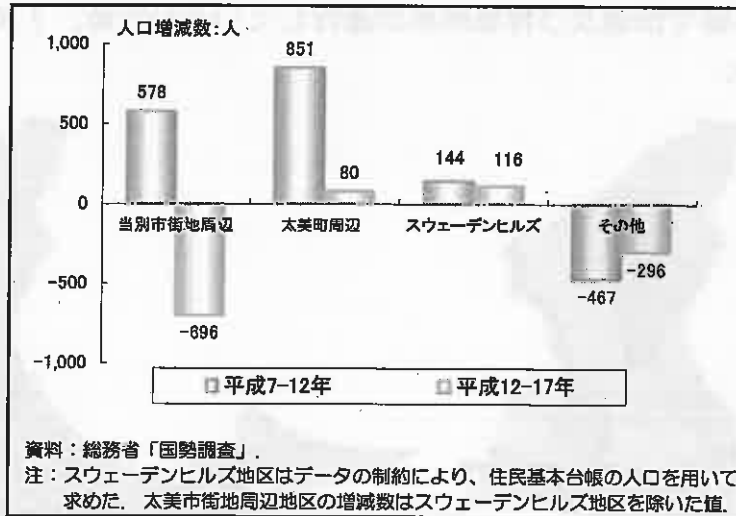


図表 1-2-13 地区別人口



■人口は太美町周辺・スウェーデンヒルズ地区で増加するも他地区では減少

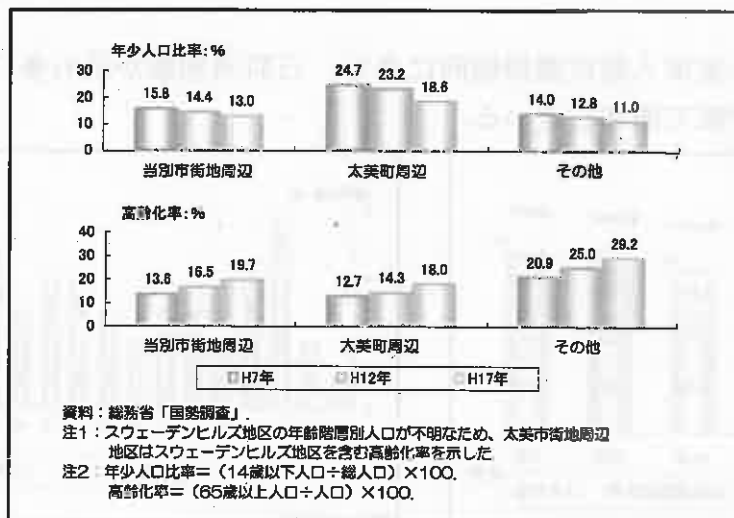
- ・当別市街地周辺地区の人口は、生産年齢人口（15～64歳）の減少などにより、平成12年から平成17年にかけて減少に転じる。
- ・一方、太美町周辺とスウェーデンヒルズ地区の人口は、札幌近郊の通勤圏として移住者が増加したことなどを背景に増加。
- ・その他地区では、農家人口の減少などにより減少。



図表 1-2-14 地区別人口増減比率

■各地区で高齢化が進行

- ・年少人口の減少や高齢人口の増加などにより、各地区の年少人口比率（14歳以下人口割合）は低下し、高齢化率（65歳以上人口割合）は上昇。
- ・特に、農村部であるその他地区で高齢化が進行しており、高齢化率（65歳以上人口割合）が30%近くまで上昇。



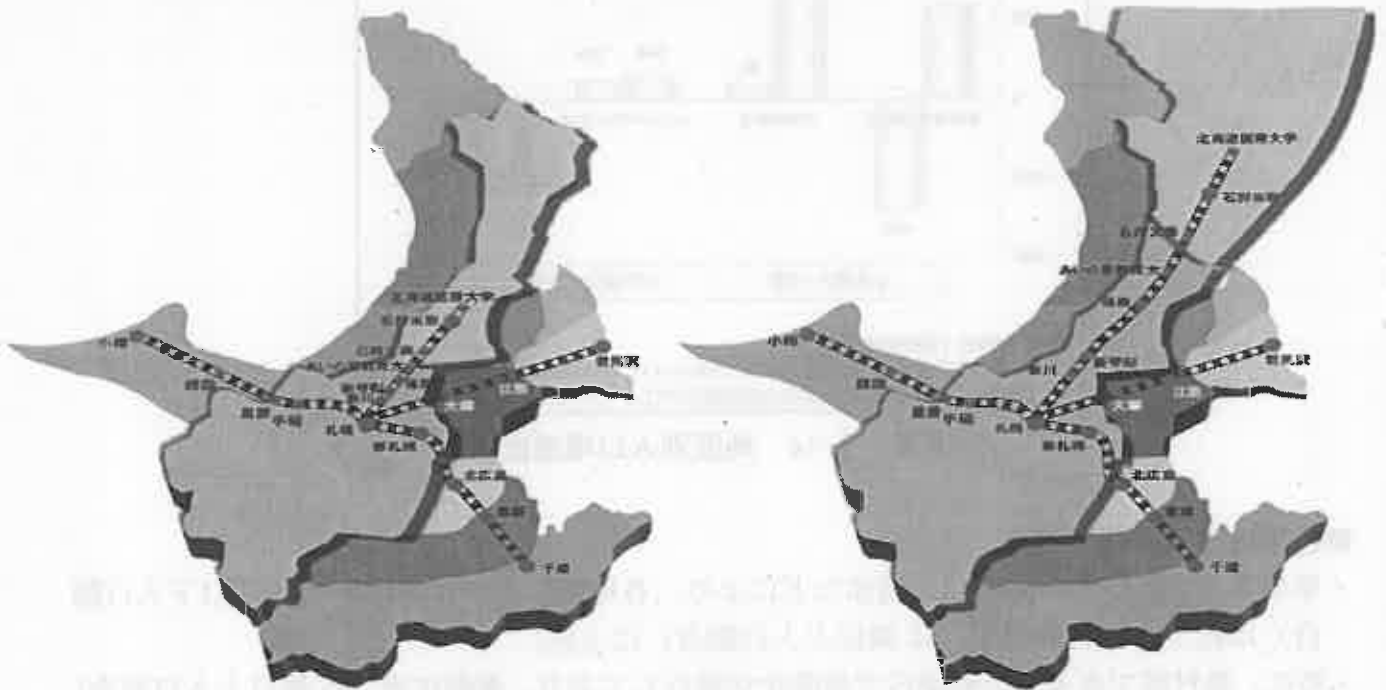
図表 1-2-15 地区別年少人口比率・高齢化率

### 3. 当別町における地域交通の概要

#### (1) 主要道路と鉄軌道

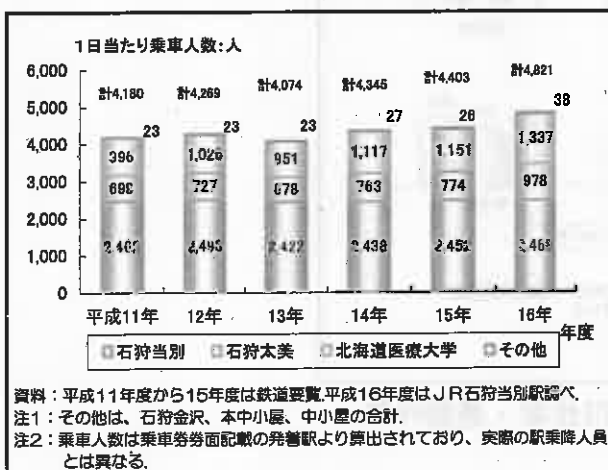
当別町には、275号と337号の2つの国道があり、札幌市中心部まで近く、車で約1時間、JR札幌線（学園都市線）を使えば約40分の距離にある。

このように、当別町は、実距離では札幌と非常に近い位置環境にあるものの、JR札幌線（学園都市線）は単線で快速及び特急列車が運行していないため、JRの他路線と比べると時間距離は大きい。

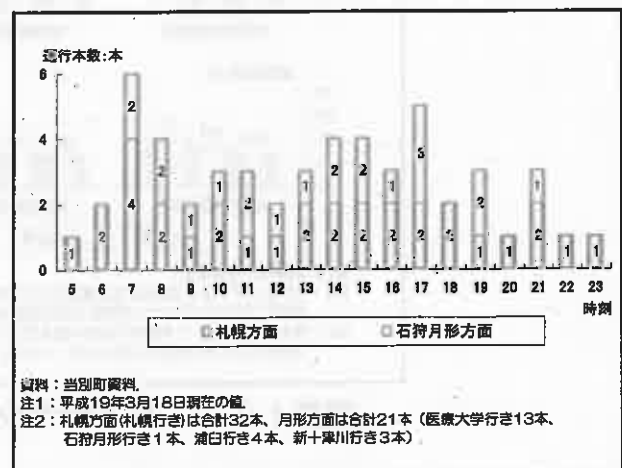


図表 1-3-1 札幌圏のJR各路線と実距離（左）と時間距離（右）

JRの1日当たりの乗車人数は微増傾向にあり、石狩当別駅が最も多く、近年は石狩太美駅や北海道医療大学駅で増加している。



図表 1-3-2 JRの乗車人員

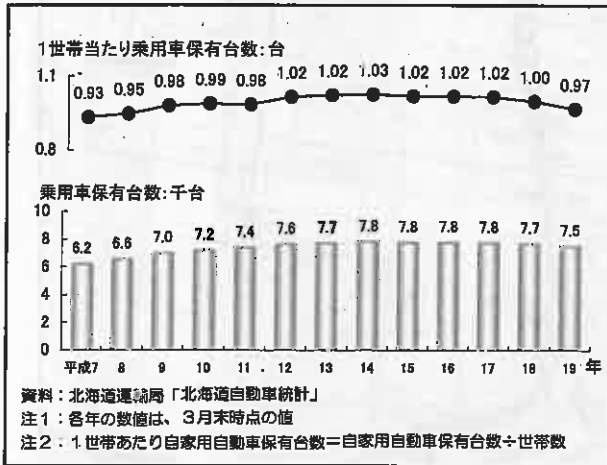


【参考：JRの運行本数（石狩当別駅 H19.3 現在）】

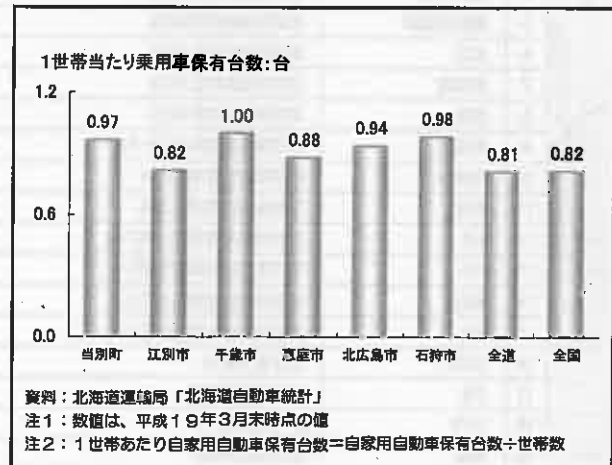
## (2) 自家用自動車

自家用自動車の保有台数は、世帯数の増加などにより7,800台程度まで増加したが、平成14年をピークに減少に転じおり、1世帯当たり乗用車保有台数についても平成12年以降は1台を超えていたが、近年は減少傾向にある。

しかし、全道や全国と比較して1世帯当たり乗用車保有台数は多い(平成19年)。



図表 1-3-3 自家用自動車保有台数



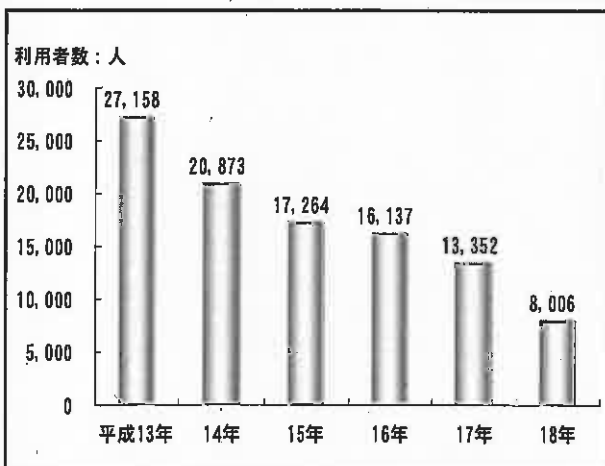
図表 1-3-4 1世帯あたり自家用自動車保有台数比較

## (3) 路線バス「当江線」

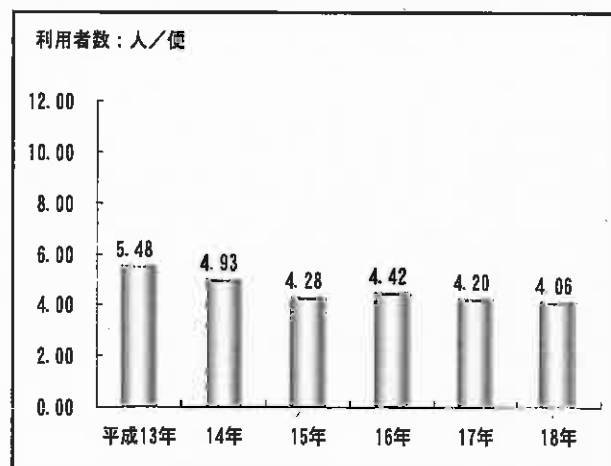
昭和32年に運行を開始した当江線は、当別市街地周辺住民の生活圏域である江別市までの唯一の大量輸送機関である。

しかし、利用者の減少に伴い平成17年度を以って運行事業者が撤退したため、平成18年度からは土日曜・祝日を運休するなどの減便を行い、(有)下段モータースによる「廃止代替バス」として運行している。

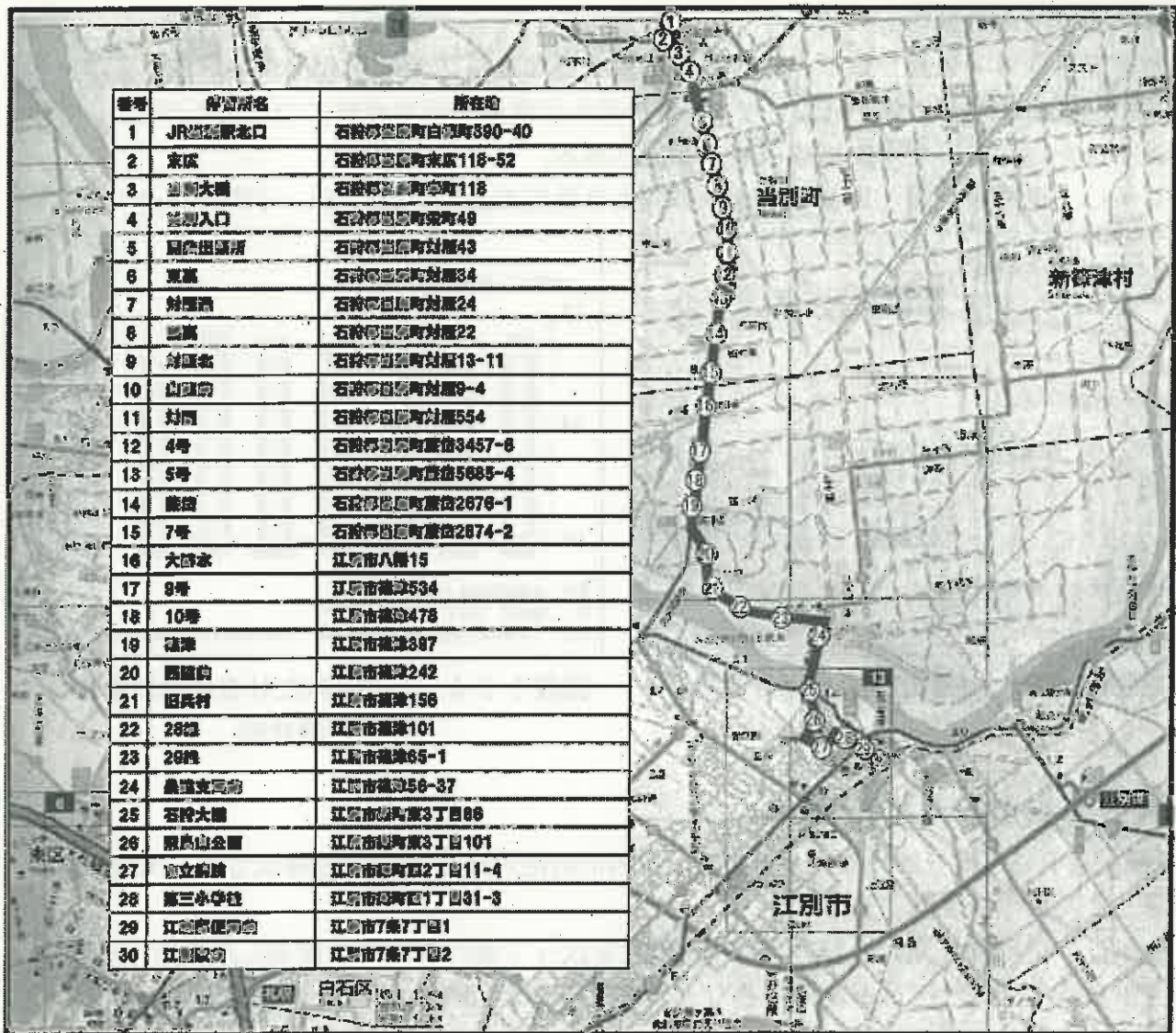
なお、本路線に対しては、北海道・江別市・当別町により、赤字補填を行っている。



図表 1-3-5 利用者数の推移



図表 1-3-6 1便あたり利用者数の推移



図表 1-3-7 当江線運行路線図

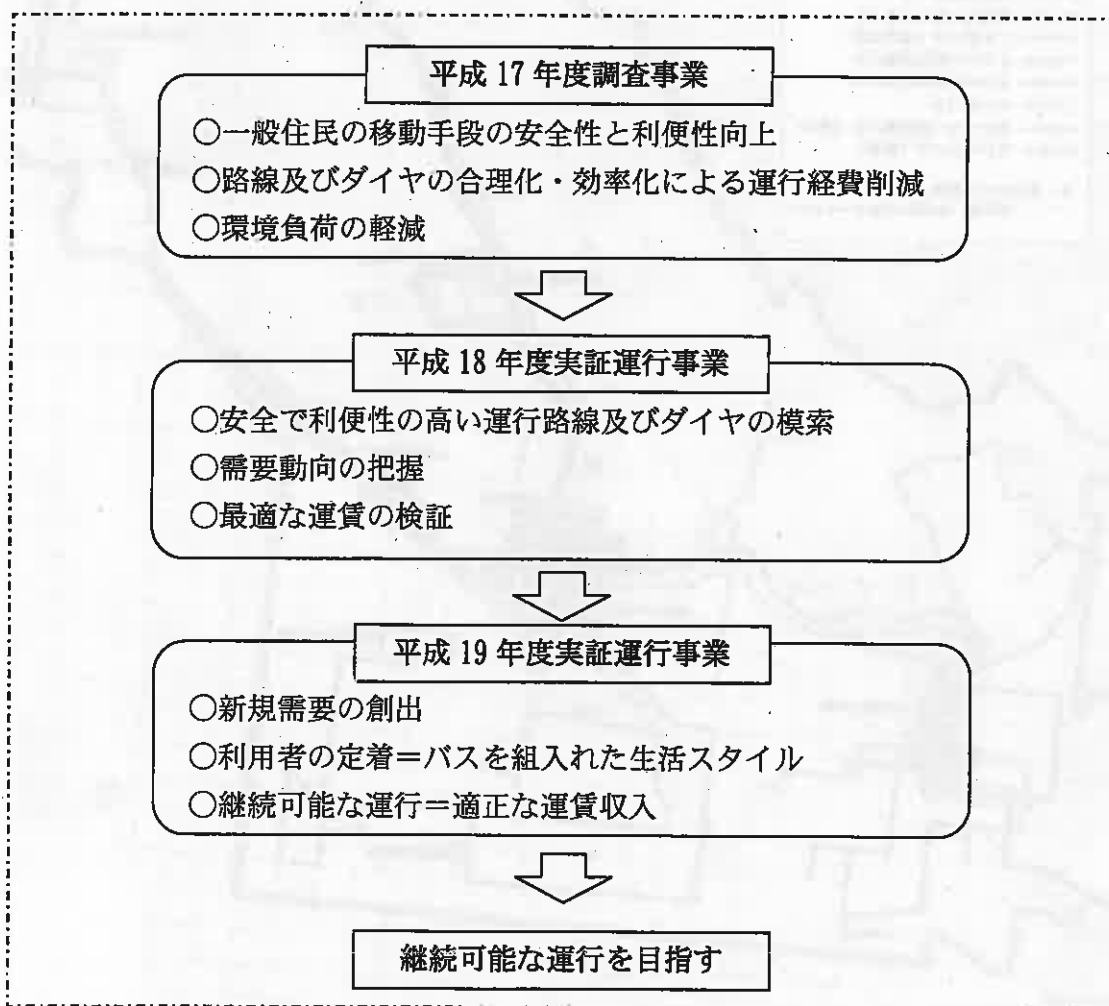
#### (4) コミュニティバス「当別ふれあいバス」

当別ふれあいバスは、JR石狩当別駅を中心とした乗合型輸送サービスであり、町内及び札幌市北区あいの里地区をサービスエリアとして、平成18年度から実証運行事業を開始している。

##### ■実証運行事業の背景と目的

当別町では、平成17年度に『当別町バス交通体系調査事業』を実施し、委員会を設置して町内及び札幌市あいの里地区までを多目的に運行されている複数のバスの一元化について調査・検討を行い、その結果を基に、平成18年度に「実証運行事業」を行った。

平成19年度は、平成18年度の結果を受け、新規需要の創出のほか「利用者の定着＝バスを組入れた生活スタイルの提案」と「継続可能な運行＝適正な運賃収入の確保」を目的として、一元化されたバスを効率的に運行できる路線及びダイヤを構築し、地球環境への負荷を軽減し、かつ、地域住民にとって安全で利便性の高い生活交通手段を創出する「本格運行」へ向け、実証運行事業を継続している。



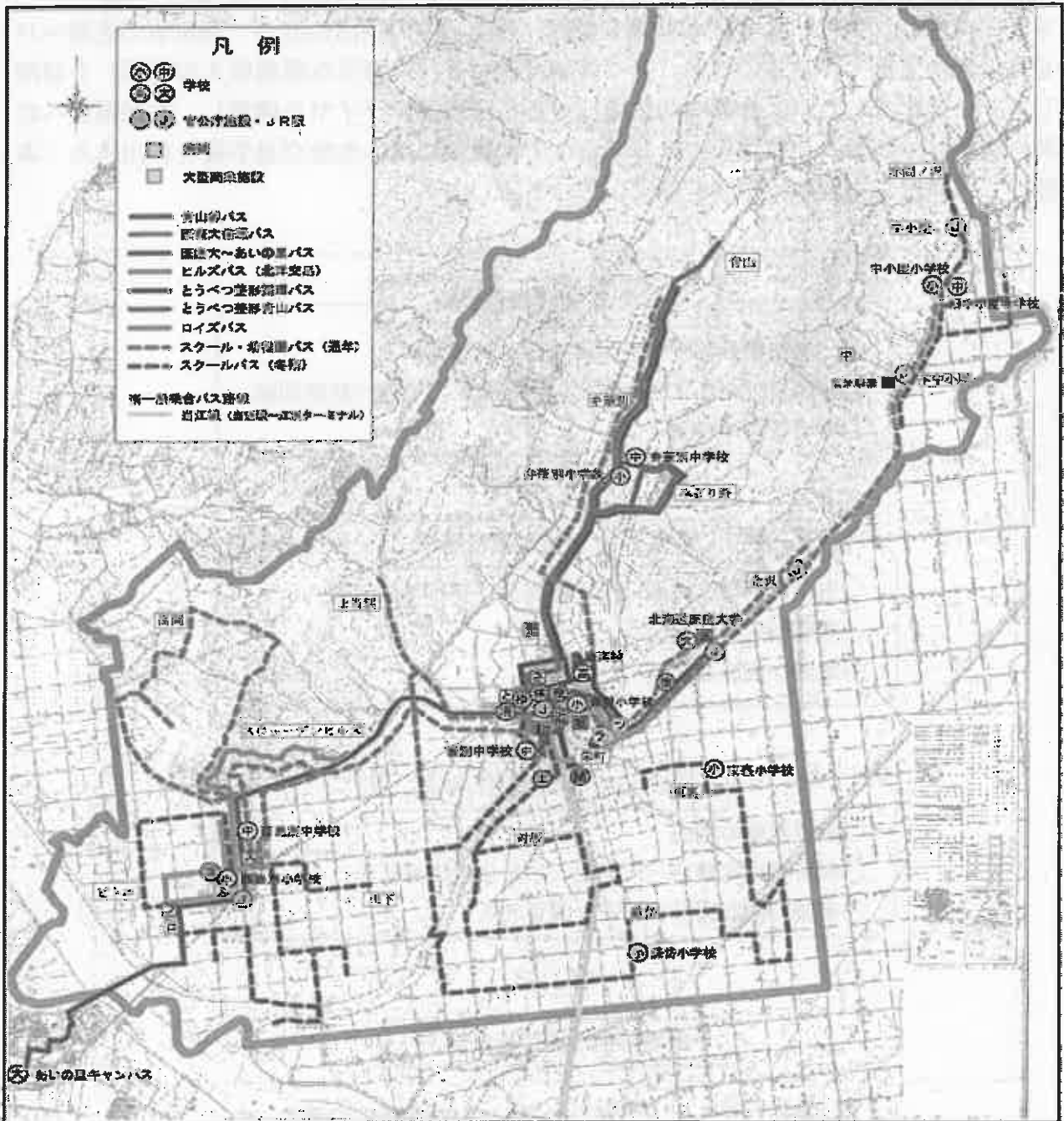
図表 1-3-8 「当別ふれあいバス構築」の流れ



■「当別ふれあいバス」運行以前の状況

平成18年度以前の当別町におけるバス交通の現状は、前述の当江線のほか当別市街地-青山地区を結ぶ「青山線（後に当別ふれあいバスへ統合）」だけであり、一般住民が利用できる総合的なバス路線網は存在していなく、また、各企業による送迎等の独自の目的によるバスが数多く走っているという大きな特徴があった。

しかしこれは、多くの住民が同じような路線を同じような時間帯に多くのバスが運行しているが、その目的外のため、目の前を走っているにも関わらず、実際には利用できないという事であった。



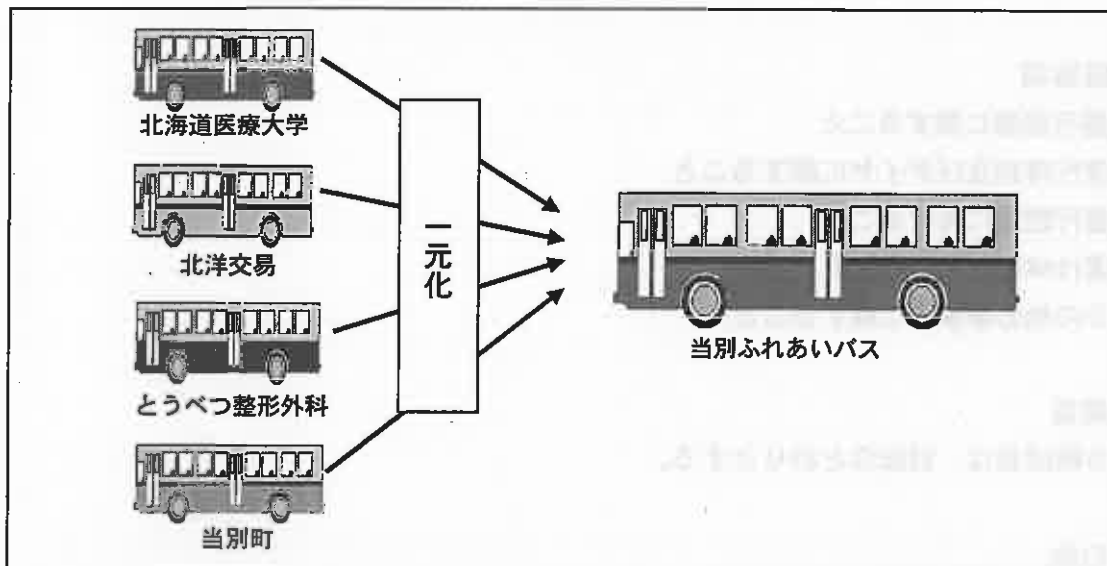
図表1-3-9 平成17年度 当別町各バス路線運行図

### ■「当別ふれあいバス」の特徴

当別ふれあいバス最大の特徴は、全国的にも例が無い「官民共同による運行」である。

これは前述のとおり、患者や学生、限定地区対象の住民を送迎するために独自サービスとして行っていた、北海道医療大学、北洋交易(株)、とうべつ整形外科（以下、「参加事業者」とする）によるバス運行と、当別町が運行する福祉バス及び運行補助を行っていた青山線を一元化することにより、「路線バス」として不特定多数の利用者を輸送することを可能にした。

また、参加事業者が行っていたサービス要素を低下させないために、従来の目的でバスを利用する場合に限り「無料チケット」を交付し、対応している。



図表 1-3-10 「当別ふれあいバス」イメージ



【写真：当別町コミュニティバス「当別ふれあいバス」】

## ■運行管理

当別ふれあいバスの運行管理については、参加事業者と運行事業者及び当別町で「当別町コミバス運行事業者連絡会議」を設立し、状況の把握や整理、運行改善等について協議している。

### 平成19年度 当別町コミバス運行事業者連絡会議 内規

#### 1 目的

当別町コミバス運行事業者連絡会議（以下「会議」という。）は、当別町コミュニティバス実証運行の実施に際して、その内容及び結果等を検証することを目的とする。

#### 2 検証事項

- (1) 運行路線に関する事
- (2) 運行時刻及びダイヤに関する事
- (3) 運行経費に関する事
- (4) 運行体制に関する事
- (5) その他必要事項に関する事

#### 3 構成員

会議の構成員は、別紙のとおりとする。

#### 4 その他

- (1) 会議の開催に際し必要があると認めるときは、関係者に対して会議への出席、資料の提出、説明その他必要な協力を求めることができる。
- (2) この規程に定めるもののほか、必要な事項は、会議に諮って定める。

#### 附 則

- 1 この規程は、平成19年5月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成20年3月31日限り、その効力を失う。



## 別紙

所 属	職 氏 名	備考
北海道医療大学	経営企画部長 小野正道	参加事業者
北洋交易株式会社	グループリーダー 中村慧一	
とうべつ整形外科	看護師長 北村佳代子	
有限会社下段モータース	代表取締役 下段寿之	運行事業者
当別町企画部	部長 増輪肇	事務局長
当別町企画部企画課	課長 五十嵐一夫	事務局
当別町企画部企画課企画振興係	係長 熊谷康弘	
当別町企画部企画課企画振興係	主任 鱒渕真太郎	
当別町企画部企画課企画振興係	主事 石原信登志	

## ■平成19年度実証運行の概要

当別ふれあいバスの運行概要は、次のとおりである（平成19年12月末現在）。

運行期間	平成19年4月1日～平成20年3月31日 (平成19年10月15日：一部改正)	
サービスエリア	当別町内及び札幌市北区あいの里地区	
バス停留所	68ヶ所(136本)	
車 両	中型バス3台・小型バス1台	
便 数	平日 86便 土日祝日 31便	
運 賃	乗車運賃：大人200円 小人100円	
	回数券：2,000円(12枚綴り)	
	応援券	一般 小・中学生 高校生 障がい者 介護人
	1ヶ月	2,500円 1,500円
3ヶ月	6,000円 3,500円	
6ヶ月	10,000円 6,000円	

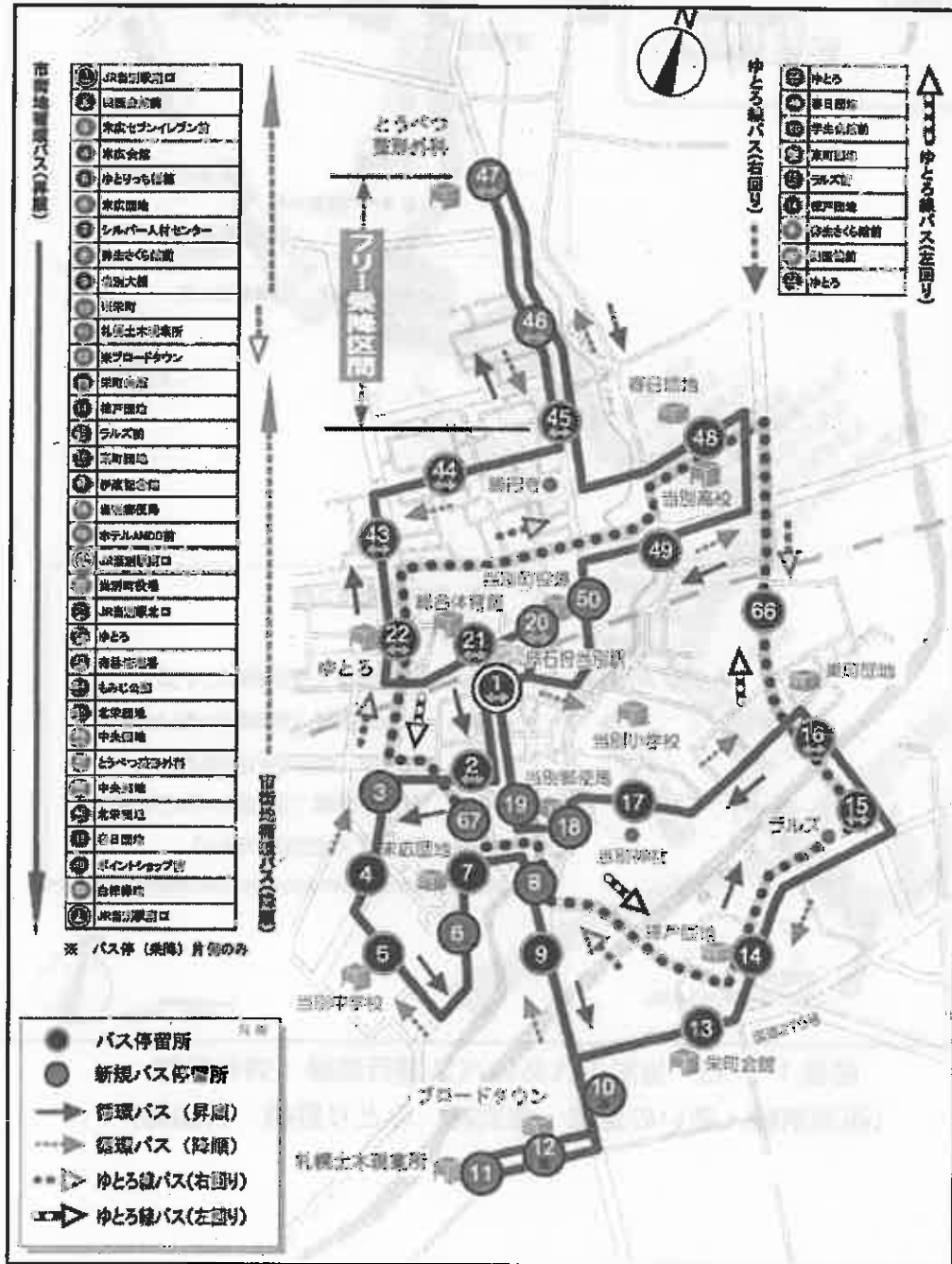
図表 1-3-11 「当別ふれあいバス」運行概要

■運行路線

平成19年度当別ふれあいバスは、平成17年度調査事業及び平成18年度実証運行事業の結果を基に、JR石狩当別駅を起終点として、市街地循環線（昇順・降順の2路線）、西当別線、あいの里線、金沢線、みどり野線、青山線、ゆとろ線を平日4台、土日祝日2台のバスで運行した（ゆとろ線については、平成19年10月14日をもって廃止）。

また、平成19年10月15日からは、北海道運輸局が行った「平成18年度公共交通活性化総合プログラム」の結果を受け、お買い物に特化したバス「お買い物ふれバ（A・Bの2路線）」を運行開始した。

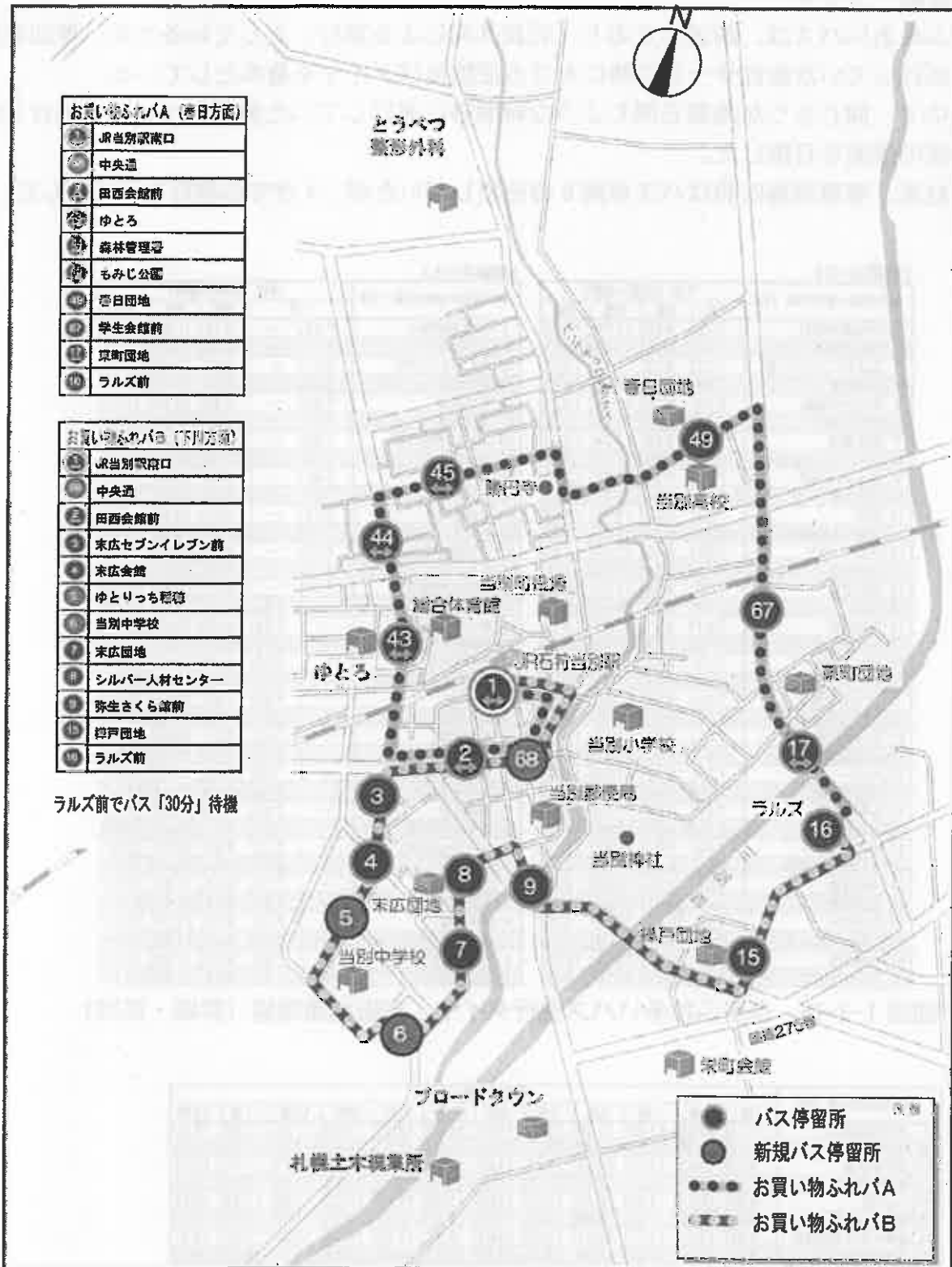
結果、平成19年12月末時点での運行路線は9路線である。



図表 1-3-12 当別ふれあいバス運行路線：市街地循環線（昇順・降順）



図表 1-3-13 当別ふれあいバス運行路線：郊外路線  
 (西当別線・あいの里線・金沢線・みどり野線・青山線)



図表 1-3-14 当別ふれあいバス運行路線：お買い物ふれバ（A・B）

■運行便数・ダイヤ

当別ふれあいバスは、前述のとおり「官民共同による運行」としているため、参加事業者が従来行っていた独自サービス時における便数及びダイヤを基本としている。

その中で、同じような路線を同じような時間帯に運行していた箇所については統合を図り、経費の節減を目指した。

その結果、事業実施以前はバス車両6台を要していたが、4台での運行を可能とした。

【昇順コース】

栄町方面→春日方面 行き	平日（月曜～金曜）			
	1便	2便	3便	4便
1 JR当別駅南口	7:20	9:20	11:20	13:20
2 田西会館前	7:21	9:21	11:21	13:21
3 末広セブンイレブン前	7:22	9:22	11:22	13:22
4 末広会館	7:23	9:23	11:23	13:23
5 ゆとりっち福田	7:24	9:24	11:24	13:24
6 当別中学校	7:26	9:26	11:26	13:26
7 末広団地	7:28	9:28	11:28	13:28
8 シルバー人材センター	7:29	9:29	11:29	13:29
9 弥生さくら館前	7:30	9:30	11:30	13:30
10 当別大橋	7:31	9:31	11:31	13:31
11 栄町	7:32	9:32	11:32	13:32
12 札幌土木現業所	7:34	9:34	11:34	13:34
13 プロドタウン	7:35	9:35	11:35	13:35
14 栄町会館	7:38	9:38	11:38	13:38
15 樺戸団地	7:39	9:39	11:39	13:39
16 ラルス前	7:40	9:40	11:40	13:40
17 東町団地	7:41	9:41	11:41	13:41
18 伊達記念館	7:42	9:42	11:42	13:42
19 当別郵便局	7:43	9:43	11:43	13:43
20 ホテルANDO前	7:44	9:44	11:44	13:44
1 JR当別駅南口	7:50	9:50	11:50	13:50
1 JR当別駅南口	7:52	9:50	11:50	13:50
21 当別役場	7:53	9:51	11:51	13:51
22 JR当別駅北口	7:54	9:52	11:52	13:52
43 ゆとり	7:55	9:53	11:53	13:53
44 森林管理署	7:56	9:54	11:54	13:54
45 もみじ公園	7:57	9:55	11:55	13:55
46 北栄団地	7:58	9:56	11:56	13:56
47 中央団地	7:59	9:57	11:57	13:57
48 とうべつ整形外科	8:00	9:58	11:58	13:58
47 中央団地	8:02	10:00	12:00	14:00
46 北栄団地	8:03	10:01	12:01	14:01
49 春日団地	8:05	10:03	12:03	14:03
50 ポイントショップ前	8:06	10:04	12:04	14:04
51 白樺緑地	8:07	10:05	12:05	14:05
1 JR当別駅南口	8:12	10:10	12:10	14:10

【降順コース】

春日方面→栄町方面 行き	平日（月曜～金曜）				
	1便	2便	3便	4便	
1 JR当別駅南口	6:55	—	8:15	10:20	12:20
51 白樺緑地	8:36	—	8:16	10:21	12:21
50 ポイントショップ前	6:57	—	8:17	10:22	12:22
49 春日団地	6:58	—	8:18	10:23	12:23
46 北栄団地	7:00	—	8:20	10:25	12:25
47 中央団地	7:01	—	8:21	10:26	12:26
48 とうべつ整形外科	7:02	—	8:22	10:27	12:27
47 中央団地	7:04	—	8:24	10:29	12:29
46 北栄団地	7:05	—	8:25	10:30	12:30
45 もみじ公園	7:06	—	8:26	10:31	12:31
44 森林管理署	7:07	—	8:27	10:32	12:32
43 ゆとり	7:08	—	8:28	10:33	12:33
22 JR当別駅北口	7:09	—	8:29	10:34	12:34
21 当別郵便局	7:10	—	8:30	10:35	12:35
1 JR当別駅南口	7:15	—	8:35	10:40	12:40
1 JR当別駅南口	—	6:55	8:35	10:40	12:40
20 ホテルANDO前	—	6:56	8:36	10:41	12:41
19 当別郵便局	—	6:57	8:37	10:42	12:42
18 伊達記念館	—	6:58	8:38	10:43	12:43
17 東町団地	—	6:59	8:39	10:44	12:44
16 ラルス前	—	7:00	8:40	10:45	12:45
15 樺戸団地	—	7:01	8:41	10:46	12:46
14 栄町会館	—	7:03	8:43	10:48	12:48
11 栄町	—	7:05	8:45	10:50	12:50
12 札幌土木現業所	—	7:08	8:48	10:53	12:53
13 プロドタウン	—	7:09	8:49	10:54	12:54
10 当別大橋	—	7:10	8:50	10:55	12:55
9 弥生さくら館前	—	7:11	8:51	10:56	12:56
8 シルバー人材センター	—	7:12	8:52	10:57	12:57
7 末広団地	—	7:13	8:53	10:58	12:58
6 当別中学校	—	7:15	8:55	11:00	13:00
5 ゆとりっち福田	—	7:17	8:57	11:02	13:02
4 末広会館	—	7:18	8:58	11:03	13:03
3 末広セブンイレブン前	—	7:19	8:59	11:04	13:04
2 田西会館前	—	7:20	9:00	11:05	13:05
1 JR当別駅南口	—	7:25	9:05	11:10	13:10

図表 1-3-15 当別ふれあいバス運行ダイヤ：市街地循環線（昇順・降順）

北海道医療大学 行き	平日（月曜～金曜）											
	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便	9便	10便	11便	12便
1 JR当別駅南口	9:15	10:30	11:20	12:20	13:25	14:00	15:25	15:55	16:15	17:00	17:50	18:20
52 当別小学校	9:17	10:32	11:22	12:22	13:27	14:02	15:27	15:57	16:17	17:02	17:52	18:22
53 元町浄水場	9:18	10:33	11:23	12:23	13:28	14:03	15:28	15:58	16:18	17:03	17:53	18:23
17 東町団地	9:19	10:34	11:24	12:24	13:29	14:04	15:29	15:59	16:19	17:04	17:54	18:24
18 ラルス前	9:20	10:35	11:25	12:25	13:30	14:05	15:30	16:00	16:20	17:05	17:55	18:25
54 福祉センター	9:21	10:36	11:26	12:26	13:31	14:06	15:31	16:01	16:21	17:06	17:56	18:26
55 福祉中央土地改良区	9:22	10:37	11:27	12:27	13:32	14:07	15:32	16:02	16:22	17:07	17:57	18:27
56 北海道医療大学	9:25	10:40	11:30	12:30	13:35	14:10	15:35	16:05	16:25	17:10	18:00	18:30

JR当別駅南口 行き	平日（月曜～金曜）													
	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便	9便	10便	11便	12便	13便	14便
56 北海道医療大学	8:45	9:30	10:45	11:35	12:35	13:50	14:15	14:40	15:40	16:15	17:15	18:10	18:50	19:55
55 福祉中央土地改良区	8:46	9:31	10:46	11:36	12:36	13:51	14:16	14:41	15:41	16:16	17:16	18:11	18:51	19:56
54 福祉センター	8:48	9:33	10:48	11:38	12:38	13:53	14:18	14:43	15:43	16:18	17:18	18:13	18:53	19:58
16 ラルス前	8:49	9:34	10:49	11:39	12:39	13:54	14:19	14:44	15:44	16:19	17:19	18:14	18:54	19:59
17 東町団地	8:50	9:35	10:50	11:40	12:40	13:55	14:20	14:45	15:45	16:20	17:20	18:15	18:55	20:00
53 元町浄水場	8:51	9:36	10:51	11:41	12:41	13:56	14:21	14:46	15:46	16:21	17:21	18:16	18:56	20:01
52 当別小学校	8:52	9:37	10:52	11:42	12:42	13:57	14:22	14:47	15:47	16:22	17:22	18:17	18:57	20:02
1 JR当別駅南口	8:55	9:40	10:55	11:45	12:45	14:00	14:25	14:50	15:50	16:25	17:25	18:20	19:00	20:05

図表 1-3-16 当別ふれあいバス運行ダイヤ：金沢線





みどり野会館 行き	平日（月曜～金曜）		
	1便	2便	3便
1 JR当別駅南口	9:08	13:55	15:05
21 当別町役場	9:09	13:56	15:06
22 JR当別駅北口	9:10	13:57	15:07
43 ゆとろ	9:11	13:58	15:08
44 森林管理署	9:12	13:59	15:09
45 もみじ公園	9:13	14:00	15:10
46 北栄団地	9:14	14:01	15:11
47 中央団地	9:15	14:02	15:12
48 とらべつ整形外科	9:16	14:03	15:13
57 二番地橋	9:18	14:05	15:15
58 茂平沢橋	9:20	14:07	15:17
59 弁摩駅前便所	9:22	14:09	15:19
60 茂平沢北部	9:23	14:10	15:20
61 みどり野団地	9:24	14:11	15:21
62 みどり野会館	9:33	14:20	15:30

JR当別駅南口 行き	平日（月曜～金曜）		
	1便	2便	3便
62 みどり野会館	9:35	14:25	15:40
61 みどり野団地	9:36	14:26	15:41
60 茂平沢北部	9:39	14:29	15:44
59 弁摩駅前便所	9:40	14:30	15:45
58 茂平沢橋	9:42	14:32	15:47
57 二番地橋	9:44	14:34	15:49
48 とらべつ整形外科	9:45	14:35	15:50
47 中央団地	9:45	14:36	15:51
46 北栄団地	9:47	14:37	15:52
45 もみじ公園	9:48	14:38	15:53
44 森林管理署	9:49	14:39	15:54
43 ゆとろ	9:50	14:40	15:55
22 JR当別駅北口	9:51	14:41	15:56
21 当別町役場	9:52	14:42	15:57
1 JR当別駅南口	10:00	14:50	16:05

図表 1-3-19 当別ふれあいバス運行ダイヤ：みどり野線

青山会館 行き	平日（月曜～金曜）					土曜・日曜・祝日		
	1便	2便	3便	4便	5便	1便	2便	3便
1 JR当別駅南口	7:55	10:15	12:35	16:45	18:10	10:15	12:35	16:50
21 当別町役場	7:56	10:16	12:36	16:46	19:11	10:16	12:36	16:51
22 JR当別駅北口	7:57	10:17	12:37	16:47	19:12	10:17	12:37	16:52
43 ゆとろ	7:58	10:18	12:38	16:48	19:13	10:18	12:38	16:53
44 森林管理署	7:59	10:19	12:39	16:49	19:14	10:19	12:39	16:54
45 もみじ公園	8:00	10:20	12:40	16:50	19:15	10:20	12:40	16:55
46 北栄団地	8:01	10:21	12:41	16:51	19:16	10:21	12:41	16:56
47 中央団地	8:02	10:22	12:42	16:52	19:17	10:22	12:42	16:57
48 とらべつ整形外科	8:03	10:23	12:43	16:53	19:18	10:23	12:43	16:58
57 二番地橋	8:05	10:25	12:45	16:55	19:20	10:25	12:45	17:00
58 茂平沢橋	8:07	10:27	12:47	16:57	19:22	10:27	12:47	17:02
59 弁摩駅前便所	8:09	10:29	12:49	16:59	19:24	10:29	12:49	17:04
60 茂平沢北部	8:10	10:30	12:50	17:00	19:25	10:30	12:50	17:05
61 みどり野団地	8:13	10:33	12:53	17:03	19:28	10:33	12:53	17:08
62 みどり野会館	8:14	10:34	12:54	17:04	19:29	10:34	12:54	17:09
63 第10組合	8:18	10:38	12:58	17:08	19:33	10:38	12:58	17:13
64 第10組合	8:20	10:40	13:00	17:10	19:35	10:40	13:00	17:15
65 阿藪岩口	8:22	10:42	13:02	17:12	19:37	10:42	13:02	17:17
66 青山会館	8:30	10:50	13:10	17:20	19:45	10:50	13:10	17:25

JR当別駅南口 行き	平日（月曜～金曜）					土曜・日曜・祝日		
	1便	2便	3便	4便	5便	1便	2便	3便
66 青山会館	7:10	8:32	10:50	13:15	17:25	7:30	10:50	13:15
65 阿藪岩口	7:12	8:34	10:52	13:17	17:27	7:32	10:52	13:17
64 第10組合	7:14	8:36	10:54	13:19	17:29	7:34	10:54	13:19
63 第9組合	7:16	8:38	10:56	13:21	17:31	7:36	10:56	13:21
62 みどり野会館	7:20	8:42	11:00	13:25	17:35	7:40	11:00	13:25
61 みどり野団地	7:21	8:43	11:01	13:26	17:36	7:41	11:01	13:26
60 茂平沢北部	7:24	8:46	11:04	13:29	17:39	7:44	11:04	13:29
59 弁摩駅前便所	7:25	8:47	11:05	13:30	17:40	7:45	11:05	13:30
58 茂平沢橋	7:27	8:49	11:07	13:32	17:42	7:47	11:07	13:32
57 二番地橋	7:29	8:51	11:09	13:34	17:44	7:49	11:09	13:34
48 とらべつ整形外科	7:30	8:52	11:10	13:35	17:45	7:50	11:10	13:35
47 中央団地	7:31	8:53	11:11	13:36	17:46	7:51	11:11	13:36
46 北栄団地	7:32	8:54	11:12	13:37	17:47	7:52	11:12	13:37
45 もみじ公園	7:33	8:55	11:13	13:38	17:48	7:53	11:13	13:38
44 森林管理署	7:34	8:56	11:14	13:39	17:49	7:54	11:14	13:39
43 ゆとろ	7:35	8:57	11:15	13:40	17:50	7:55	11:15	13:40
22 JR当別駅北口	7:36	8:58	11:16	13:41	17:51	7:56	11:16	13:41
21 当別町役場	7:37	8:59	11:17	13:42	17:52	7:57	11:17	13:42
1 JR当別駅南口	7:45	9:07	11:25	13:50	18:00	8:05	11:25	13:50

図表 1-3-20 当別ふれあいバス運行ダイヤ：青山線

春日方面→ラルス 行き	平日		春日方面→当別駅南口 行き	平日	
	1便	2便		1便	2便
1 JR当別駅南口	10:15	15:40	16ラルス前	11:00	16:25
68 中央道	10:16	15:41	17 東町団地	11:01	16:26
2 田西会館前	10:17	15:42	67 学生会館前	11:02	16:27
43 ゆとろ	10:19	15:44	49 春日団地	11:04	16:29
44 森林管理署	10:20	15:45	45 もみじ公園	11:07	16:32
45 もみじ公園	10:21	15:46	44 森林管理署	11:08	16:33
49 春日団地	10:24	15:49	43 ゆとろ	11:09	16:34
67 学生会館前	10:26	15:51	2 田西会館	11:11	16:36
17 東町団地	10:27	15:52	68 中央道	11:12	16:37
16 ラルス前(30分待機)	10:30	15:55	1 JR当別駅南口	11:15	16:40

下川方面→ラルス 行き	平日		下川方面→当別駅南口 行き	平日	
	1便	2便		1便	2便
1 JR当別駅南口	14:30	17:30	16 ラルス前	15:15	18:15
68 中央道	14:31	17:31	15 樺戸団地	15:16	18:16
2 田西会館前	14:32	17:32	9 弥生さくら館	15:18	18:18
3 末広セブンイレブン前	14:33	17:33	8 シルバー人材センター	15:19	18:19
4 末広会館	14:34	17:34	7 末広団地	15:20	18:20
5 ゆとりっちょ稲穂	14:35	17:35	6 当別中学校	15:22	18:22
6 当別中学校	14:37	17:37	5 ゆとりっちょ稲穂	15:24	18:24
7 末広団地	14:39	17:39	4 末広会館	15:25	18:25
8 シルバー人材センター	14:40	17:40	3 末広セブンイレブン前	15:26	18:26
9 弥生さくら館	14:41	17:41	2 田西会館	15:27	18:27
15 樺戸団地	14:43	17:43	68 中央道	15:28	18:28
16 ラルス前(30分待機)	14:45	17:45	1 JR当別駅南口	15:30	18:30

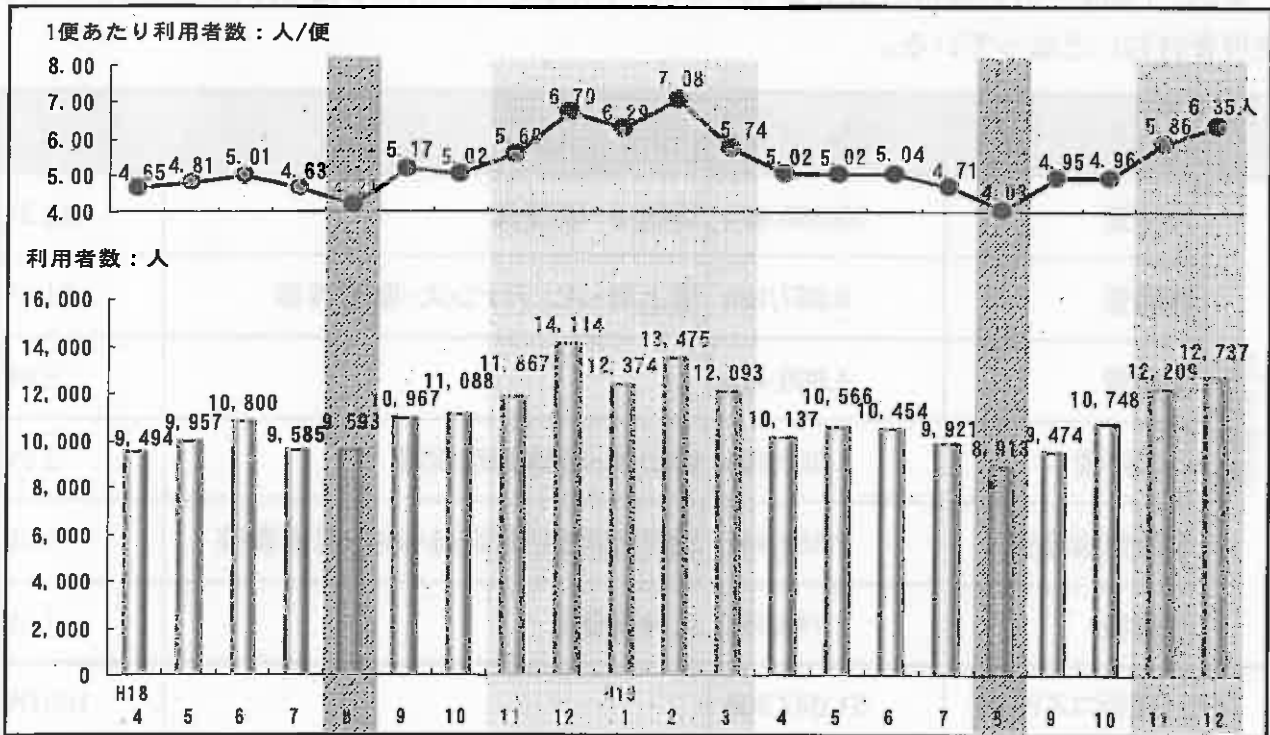
図表 1-3-21 当別ふれあいバス運行ダイヤ：お買い物ふれバ（A・B）



■利用状況

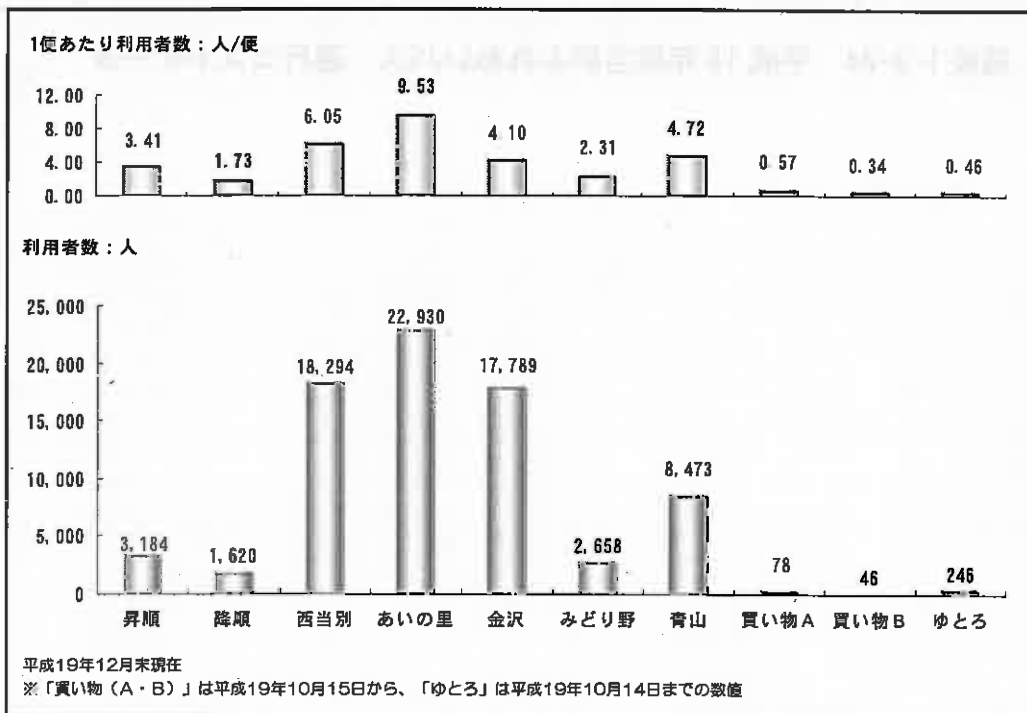
平成18年4月から平成19年12月までの利用者数を、図表1-3-22に示す。

冬期（11月～3月）には利用が大幅に増加しており、逆に長期休暇に入る8月は減少している。



図表 1-3-22 当別ふれあいバス 利用者数

また、路線別利用者数では、あいの里線が最も多く、次いで西当別線となっている。



図表 1-3-23 当別ふれあいバス 路線別利用者数

## ■運行コストと運行収入

## 【①運行コスト】

平成18年度において実施した実証運行事業の結果、当別ふれあいバスの運行コストは、年間約5,100万円であり、その内訳は、人件費が約7割を占めている。

また、1kmあたりの運行コストは192.8円、1人あたりのコストは377円（無料チケット利用者含む）となっている。

項目		金額(円)	備考	構成比
運行経費	人件費	35,380,800	運転手・事務員	69.3%
	車両費	6,057,120	借上料・メンテナンス・保険料等	11.9%
	燃料費	4,809,410		9.4%
	バス停費	1,500,684	借上料・維持管理費等	2.9%
	その他諸経費	2,553,842	運行管理費・定期券作成・清掃費等	5.0%
	消費税	746,052	人件費除く	1.5%
支出(運行コスト)計		51,047,908		100.0%
1kmあたり運行コスト		192.8	実車走行距離 264,825.0km	
1人あたり運行コスト		377.0	利用者数 135,407人	

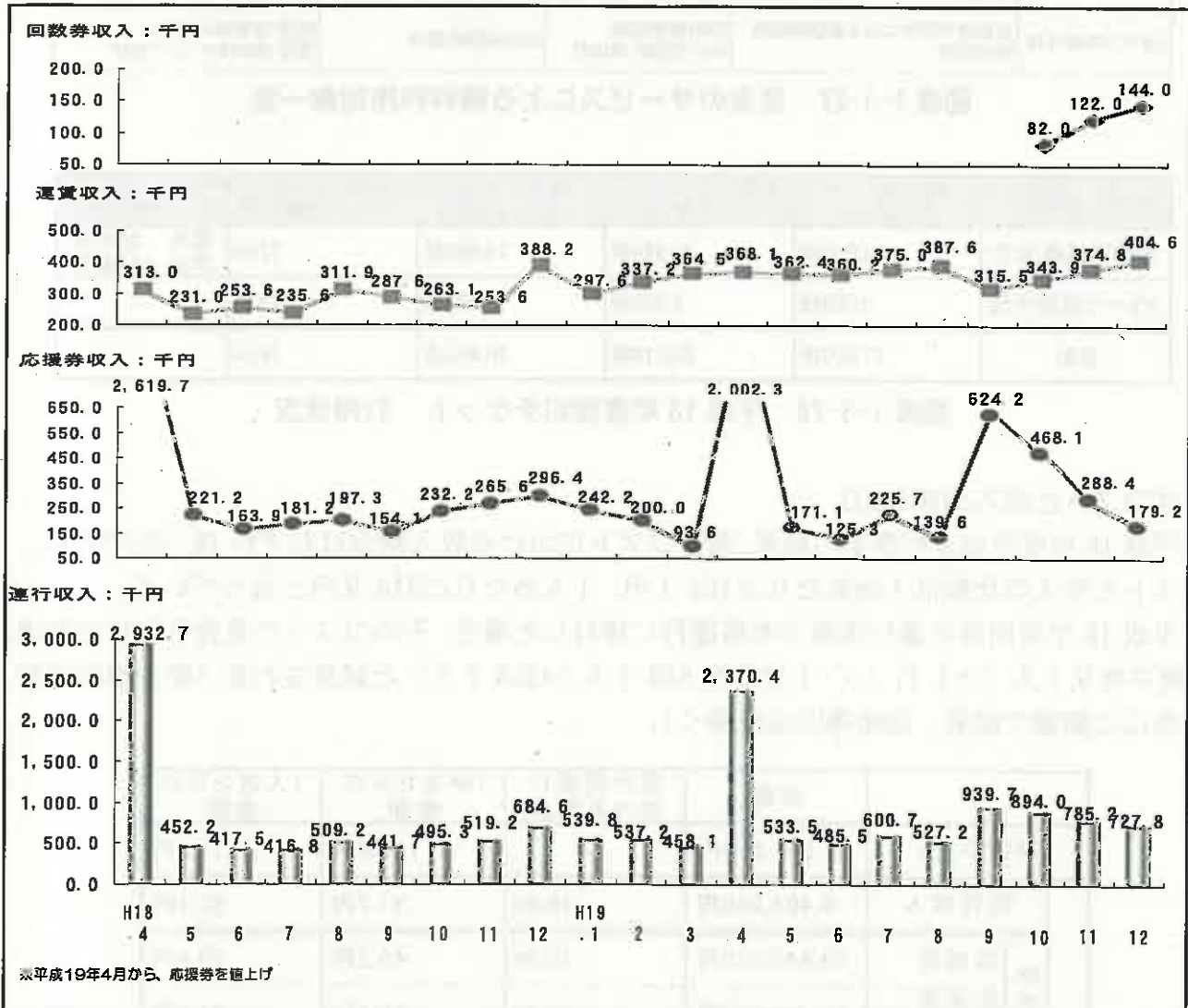
図表 1-3-24 平成18年度当別ふれあいバス 運行コストデータ

【②運行収入】

月別の利用者と運行収入の推移を、図表 1-3-25 に示す。

運行収入については、均一制運賃収入と全線乗り放題の応援券（定期券）及び回数券（平成 19 年 10 月 15 日から販売開始）の販売収入があり、応援券については、町内に 8ヶ所の販売所を設け、販売枚数 1 枚につき 100 円の手数料を販売所に対し支払い、その差額が応援券収入となっている。

また、平成 18 年度実績の 1 kmあたりの収入は 31.7 円、1 人あたりの収入は 62.1 円（無料チケット使用者含む）となっている（図表 1-3-26）。



図表 1-3-25 運行収入（応援券・運賃・回数券）の推移

項目	定期券(円)	運賃(円)	合計(円)	備考
収入合計	4,867,400	3,536,890	8,404,290	定期 57.9%   運賃 42.1%
1kmあたり収入	18.4	13.4	31.7	実車走行距離 264,825.0km
1人あたり収入	35.9	26.1	62.1	利用者数 135,407人

図表 1-3-26 平成 18 年度運行収入データ

## 【③無料チケット】

当別ふれあいバスでは、参加事業者が独自で行っていた従来のサービスを低下させないよう一定の条件のもと、無料で利用できるようにした（図表 1-3-27）。

また、平成 18 年度無料チケットの利用状況等について、図表 1-3-28 に示す。

参加事業者	条件	対象路線	対象者	利用方法(無料)
北海道医療大学	当別町金沢及び札幌市あいの里にある当該大学キャンパス及び大学付属病院に係る施設の利用	あいの里線・金沢線	当該大学及び付属病院の患者、学生及び教職員	往路:診察券・学生証等の提示 復路:無料チケットの交付
北洋交易	当別町スウェーデンヒルズ内限定の乗降	西当別線・あいの里線	一般住民	ヒルズ内限定の乗降である事を運転手に伝える
とうべつ整形外科	当別町六軒町にある当該病院施設の利用	市街地循環線・みどり野線・青山線	当該病院の患者	往路:診察券の提示 復路:無料チケットの交付

図表 1-3-27 従来のサービスによる無料利用対象一覧

参加事業者	無料チケット 配布枚数	無料チケット 交付枚数	無料チケット 使用枚数	無料チケット 利用率	備考
北海道医療大学	24,000枚	22,824枚	17,692枚	77.5%	患者: 3,807枚 学生: 13,885枚
とうべつ整形外科	3,000枚	2,992枚	2,793枚	93.3%	—
合計	27,000枚	25,816枚	20,485枚	79.4%	—

図表 1-3-28 平成 18 年度無料チケット 利用状況

## 【④コストと収入のまとめ】

平成 18 年度実証運行事業の結果、運行コストにおける収入割合はわずか 16.5%であり、コストと収入の比較は 1kmあたり△161.1円、1人あたり△314.9円となっている。

平成 18 年度同様の運行体制で本格運行に移行した場合、そのコストに見合う利用者数は、1便平均 9.1人 (+3.71人)・1日平均 630.7人 (+258.7人)と試算される(参加事業者負担金は上限額で試算、国庫補助金は除く)。

		金額	運行経費に おける割合	1kmあたりの 金額	1人あたりの 金額
運行コスト		51,047,908円	—	192.8円	377.0円
運行収入		8,404,290円	16.5%	31.7円	62.1円
収入	当別町	10,645,020円	20.9%	40.2円	78.6円
	北海道 医療大学	12,416,418円	24.3%	46.9円	91.7円
	北洋交易	7,806,625円	15.3%	29.5円	57.7円
	とうべつ 整形外科	1,775,555円	3.5%	6.7円	13.1円
	小計	32,643,618円	63.9%	123.3円	241.1円
	国庫補助金	10,000,000円	19.6%	37.8円	73.9円
合計		51,047,908円	100.0%	192.8円	377.0円

図表 1-3-29 運行コスト・収入対比表

## 4. 住民の交通に関する調査

### (1) 調査概要

当別町の今後の公共交通のあり方を示す「当別町地域公共交通活性化総合連携計画」の策定にあたり、平成17年度に実施した「交通に関するアンケート」及び平成19年度に実施した「当別町住民アンケート（新総合計画策定に関する調査）」を抜粋し準用する。

（各項目のデータグラフについては、「参考資料」に掲載。）

#### ■平成17年度「交通に関するアンケート」調査概要

調査対象者	配布数	回収数	回収率	実施日	備考
一般住民	1,000 世帯 (1 世帯 2 部)	259 世帯 (449 部)	25.9% (世帯回収率)	平成17年 7月25日	郵送回収

#### ■平成19年度「当別町住民アンケート」調査概要

調査対象者	配布数	回収数	回収率	実施日	備考
一般住民 (18歳以上)	3,009 部	1,209 部	40.2%	平成19年 9月20日	郵送回収

### (2) 調査結果

#### ■平成17年度「交通に関するアンケート」

##### 【①個人属性 (n=449)】

- ▽性別：「女性」54%・「男性」44%となっている。(グラフ1)
- ▽年齢：「60代」26%、次いで「50代」24%となっている。(グラフ2)
- ▽職業：「無職」47%、次いで「会社員」16%となっている。(グラフ3)
- ▽自動車免許の有無：「自動車免許を保有している人」は68%である。(グラフ4)
- ▽車の保有状況：「自動車免許を持っていて、さらに自由に利用できる車がある人」は88%である。(グラフ5)

##### 【②状況別交通行動の把握】

- ▽通勤・通学：殆どの世代、性別で「主に札幌市」と回答しているが、60歳以上の女性は「当別市街地」が多い。また、男性に比べ、女性の太美町周辺割合が高い。(グラフ6)
- ▽買い物：全ての世代、性別で札幌市の割合が高く、次いで当別町市街地と回答している。(グラフ7)
- ▽通院：全ての世代、性別で札幌市の割合が高く、50%以上を占めている。(グラフ8)
- ▽主な交通手段：自家用自動車（運転）の割合が最も高く、次いでJR、自家用自動車（同乗）、自転車となっている。(グラフ9)

## ■平成19年度「当別町住民アンケート」調査概要

## 【①個人属性 (n=1,209)】

▽性別：「女性」54.1%・「男性」45.6%となっている。(グラフ10)

▽年齢：「50代」21.1%、次いで「70歳以上」20.6%、「60代」20.2%となっている。

(グラフ11)

▽職業：「会社員等」18.1%、次いで「専業主婦」18.1%となっている。(グラフ12)

▽通勤・通学地：「町内」32.4%、次いで「自宅」12.4%となっている。(グラフ13)

## 【②生活環境について】

▽住みやすさ：「住み良い」「どちらかといえば住み良い」で69.2%となっている。

(グラフ14)

## ○回答者別に見る属性

- ・年齢が高くなるほど、住み良いと思っている(「住み良い」+「どちらかといえば住み良い」の合計)回答者が多くなる傾向がみられる。
- ・太美町周辺在住の回答者は、「住み良い」の回答率が低く、その分「どちらかといえば住み良い」の回答率が高い。

▽町内在住への希望：「今の場所に住み続けたい」「町内の別の所に移りたい」で64.2%となっている。(グラフ15)

## ○回答者別に見る属性

- ・町内在住への希望で住み良いと回答した人は「今の場所に住み続けたい」を、住みにくいと回答した人は「移りたい」を回答している傾向がある。
- ・年齢が高くなるほど、「今の場所に住み続けたい」の回答が大きくなる傾向がみられる。
- ・太美町周辺在住の回答者は、「住み続けたい」の回答率が全体に比べ低い。
- ・居住年数が21年以上の回答者では、「住み続けたい」との回答が7割を超えているが、20年以下の回答者では4~5割程度に止まり、逆に2~3割が「移りたい」との意向を示している。

▽町内在住への希望理由：「居住環境が良い(47.7%)」、「自然環境が良い(39.9%)」が最も高く、次いで、「交通の便が良い」が20.5%となっている。

(グラフ16)

## ○回答者別に見る属性

- ・年齢が若い回答者では「土地柄が気に入っている」が、年齢の高い回答者では「交通の便がよい」が上位に挙がっている。
- ・スウェーデンヒルズ在住の回答者で、「居住環境がよい」、「自然環境がよい」との回答が8割を超えている。

▽町外移住への希望理由：「交通の便が悪い」と「買い物や娯楽の場が少ない」が最も高く、39.4%となっている。(グラフ17)

○回答者別に見る属性

・当別市街地在住の回答者では「買い物や娯楽の場が少ない」が、太美町周辺在住の回答者では「交通の便が悪い」がそれぞれ最も回答率が高い。

▽購買地域：町内では「食料品(60.5%)」、「日用雑貨(43.3%)」、「医薬品等(41.8%)」が札幌市より高く、「衣料品(63.3%)」、「電化製品(67.7%)」、「趣味・娯楽用品(68.8%)」は6割強が札幌市となっている。(グラフ18)

○回答者別に見る属性

・太美町周辺、スウェーデンヒルズ、西地区農村部在住の回答者では、食料品も含め、「札幌」で購入するとの回答が多く、札幌への購買力の流出が顕著にみられる。  
・年齢層が高いほど町内での購入が多い傾向がみられるが、居住年数別では在住期間が21年以上在住の回答者を除くと、在住期間が短いほど当別町内で購入するとの回答が多い傾向にある。

【③施策の現状評価と今後の重要性(生活環境)】

▽現状の満足度：満足している回答(「満足」+「やや満足」)より不満のある回答(「不満」+「やや不満」)の割合が高いものは、「⑥安全な道路整備」、「⑦公共交通の整備」、「⑬防災対策」の順となっている。(グラフ19)

▽今後の重要度：全ての項目において重要ではないとの回答(「重要でない」+「あまり重要でない」)より重要であるとの回答(「重要」+「特に重要」)の割合が高いが、特にその差が大きい項目は、「⑤ごみの少ない生活」、「⑥公共交通の整備」、「⑩安全・安心な食生活」、「⑪水の安定供給」、「⑫防犯体制・設備の整備」、「⑬防災対策」となっている。(グラフ20)

※アンケート調査票設問項目

アンケート調査票設問項目	
①自然環境の保全	①森林や川などの自然環境が保全され、住民に親しまれている。
②生活環境づくり	②草刈りや花壇づくりなど、住民による生活環境づくりが定着している。
③美しい田園風景	③美しい田園風景が形成され、維持されている。
④美しい街並み	④街路樹が整備されるなど、美しい街並みが形成されている。
⑤ごみの少ない生活	⑤モノを大切に利用し、ごみの少ない暮らしが定着している。
⑥安全な道路の整備	⑥歩行者や自転車も含め、町内を快適、安全に移動できる道路が整備されている。
⑦公共交通の整備	⑦公共交通が整っている。
⑧身近なところでの買物	⑧近隣市町村を含む身近なところで買い物ができて、不便を感じない。
⑨地域集会施設の整備	⑨地域集会施設(町内会館等)が整っている。
⑩安全・安心な食生活	⑩安全な食材が手に入り、安心した食生活を送っている。
⑪水の安定供給	⑪安心して飲めるような、きれいでおいしい水が安定して供給されている。
⑫防犯体制・設備の整備	⑫防犯体制や防犯設備が整備され、安心して暮らしている。
⑬防災対策	⑬地震災害や風水害、火災に対して安全なまちが形成されている。

**(2) 計画に反映すべき要点****■自由にできる車の保有状況**

- ・自動車免許を持っている住民は約70%で、そのうち約90%が「自由に使える車がある」と回答している。

**■交通行動の実態**

- ・住民の交通行動としては、やはり大都市札幌への交通行動が多く見られる。
- ・特に、太美町周辺、スウェーデンヒルズ地区では、札幌への交通行動が多い。
- ・年齢が高いほど、町内での購買が多い傾向にある。

**■交通手段の実態**

- ・自家用自動車（運転+同乗）への依存が非常に高い。

**■生活環境**

- ・町内在住希望の理由として「交通の便が良い」との回答が多い反面、町外移住希望の理由は「交通の便が悪い」との回答が多い。
- ・特に高齢者は「交通の便が良い」、太美町周辺では「交通の便が悪い」との回答が多い。

**■公共交通の施策**

- ・公共交通が整っていないと考えている住民が多い。
- ・今後、公共交通に関する施策は「重要」と考えている住民が多い。



## 第2部 当別町地域公共交通総合連携計画

### 1. 当別町地域公共交通総合連携計画の背景と目的

#### (1) 計画策定の背景

当別町は、地形が南北に長いほか、東西に市街地が二極化している。また、札幌市や江別市といった大都市に隣接しているなどの要件によって、自動車への依存が非常に高い地域である。

主な生活圏となっている札幌市までの公共交通は、JR札幌線（学園都市線）が存在するが、同路線は他の路線と比べて時間距離が長く、札幌駅からの最終便の時刻が早いことなど不便な点が多い。また、札幌大橋の開通により短時間で札幌中心部へ移動できるようになったため、特に郊外の住民は「自宅⇒自動車⇒JR駅⇒JRで札幌」から「自宅⇒自動車⇒札幌」という動線が、大きなウエイトを占めるようになった。

特に買い物交通においては、自動車により町外の大型ショッピングセンターへ向かう傾向が数多く見られ、中心市街地の活力を低下させている。~~また、~~

これら自動車に依存する傾向のデメリットとして、環境負荷が高い（地球環境の問題や高齢者の交通事故が増加する点）が挙げられ、道内でも寒冷で積雪の多い当別町においては重要な課題である。

今後、少子高齢化が進み、逼迫する財政状況の中、地域を再生し、高齢者にとっても安全で安心な外出が可能となる地域を創造するためには、町内の交通モードの転換が求められる。

#### (2) 計画策定の目的

このような状況に対応するため、下記の課題解決を目的とし、計画策定を行った。

- ・公共交通機関での札幌市へのアクセス向上
- ・自動車に依存しない地域及び住民の形成
- ・安全で安心な移動を可能とする“地域の足”の確保
- ・当別町の活性化
- ・運輸部門における環境負荷の低減

平成18年度から実証運行中である「当別ふれあいバス」を軸に各交通機関と連携することにより、地域コミュニティの活性化やこれから訪れる高齢社会等へ対応できる交通モードを形成できると考えられる。

## 2. 当別町における地域公共交通の課題

### (1) 鉄軌道の課題

#### ■時間距離が長い

JR札幌線（学園都市線）は単線・非電化で快速及び特急の運行がないため、札幌圏域の他路線と比べ乗車時間が長い。

#### ■最終便が早い（下り）

札幌⇒当別の最終便時刻は23:07札幌発であり、札幌⇒あいの里公園（23:59札幌発）と比べ、1時間ほど早い。

#### ■石狩金沢駅～中小屋駅の利用者が少ない

対象地域の人口や運行本数の影響もあるが、当該区間の利用者は、町内全JR駅乗車人員の合計に対してわずか0.79%である（平成16年度）。

### (2) コミュニティバス等の課題

#### ■バス利用の促進

当別町はもともと自動車への依存が高く、バス等による公共交通網が整備されていなかった地域のため、交通モードの転換を図る取組も含めた利用促進策等が必要である。

#### ■運行コストに対する運行収入割合の改善

平成18年度実績では、運行収入の割合がわずか16.5%であったことから、継続可能なバス運行を目指すための、改善が必要である。

#### ■バスネットワークの維持

生活交通確保の観点からも、町内をある程度カバーしている現状と同レベルのバスネットワークを維持していく必要がある。

#### ■地域コミュニティの活性化

商工会や商店街等との連携を図り、地元市街地とバスの両方を活性化させる取組が必要である。

### (3) その他

#### ■少子化とスクールバス

少子化による学校の統廃合が進められた当別町では、スクールバス充実の要望が大きくなる中で、コミュニティバスとの連携について、検討が急務である。

#### ■閉じこもり対策等

交通弱者（特に高齢者）の移動手段確保は重要であり、誰もが安心して利用できる、外出が苦にならないための公共交通施策が必要である。

### 3. 当別町地域公共交通総合連携計画の内容

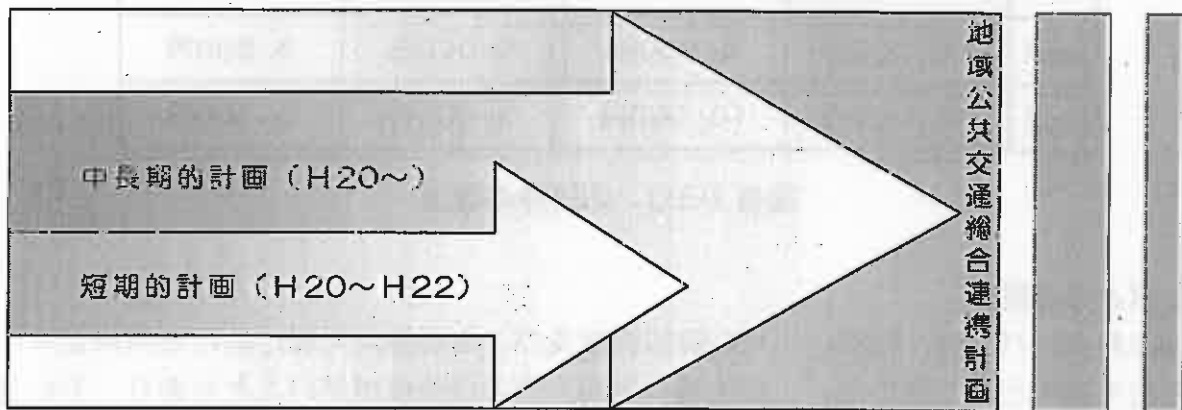
これまでの当別ふれあいバス実証運行事業の結果と、前述の課題を踏まえて、当別町地域公共交通総合連携計画を次のように定める。

#### (1) 計画年次

計画を実効あるものとするため、交通事業者や各関係機関と密接な連携を図り、節目ごとに計画の検証や新たな展開を図る。

■短期的計画：平成20年度～平成22年度の概ね3カ年（速やかに実行していく）

■中長期的計画：平成20年度～（期限は設けず、継続して協議・実施していく）



図表 2-3-1 地域公共交通総合連携計画

#### (2) 計画区域

本計画が対象とする区域は、当別町全域とする。



図表 2-3-2 地域公共交通総合連携計画区域

(3) 短期的計画の内容

A：コミュニティバス実証運行事業の改善

平成19年度に行った「当別ふれあいバス実証運行事業」をベースに改善し、より効率的で継続可能な運行を検討する。

【①運行収入の改善】

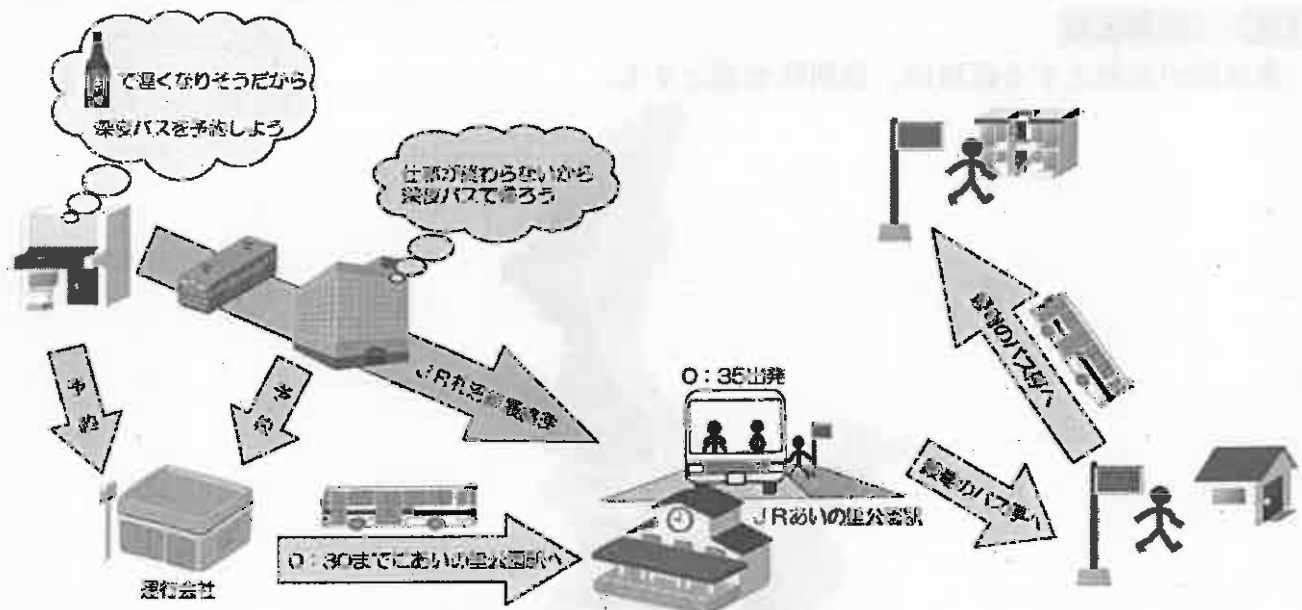
応援券の金額を見直し、運行コストに対する運行収入割合の改善を行なう。また、その影響を調査する。

	一般		小・中学生、高校生 障がい者、介護人	
	【新】 平成20年度～	【現在】 平成19年度	【新】 平成20年度～	【現在】 平成19年度
1ヶ月	4,000円	2,500円	2,000円	1,500円
3ヶ月	10,000円	6,000円	5,000円	3,500円
6ヶ月	16,000円	10,000円	8,000円	6,000円

図表 2-3-3 応援券の改正

【②JRとの連携】

当別ふれあいバスは、従来、JR石狩当別駅及びJR石狩太美駅における列車発着に併せた運行を基本としてきたが、JR札幌⇒当別方面の最終便が早いこともあり、予約制等の一定のルールを設けた「DRT<sup>\*</sup>」に近い形での運行としてコストを最小限に抑え、JR札幌⇒あいの里公園駅最終便に接続した「深夜バス」を、新たに運行する。



図表 2-3-4 深夜バスのイメージ

<sup>\*</sup>DRT:

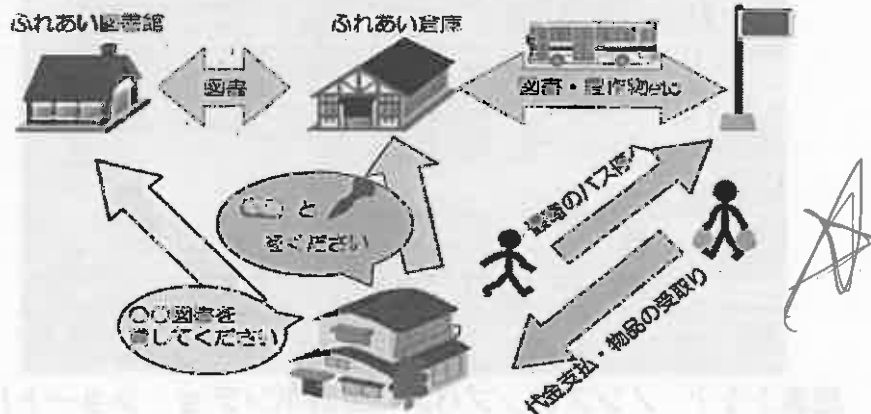
需要応答型交通 (Demand Responsive Transport) の略。需要 (事前予約等) に応じて定時定路線を運行する方法と、路線や時間を変更させて運行する方法などがある。

【③物流システムの導入】

平成19年にJR石狩当別駅南口にオープンした「当別赤れんが6号（ふれあい倉庫）」は、コンサートホール・カルチャーホール等文化的拠点としての役割がある一方で当別町の農作物及び特産品なども数多く扱っている。

また、既存施設を改修した「ふれあい図書館」も同年にオープンしている。

これら施設の「利用」を促進させる事は、地域コミュニティの活性化に繋がるものであり、施設に「通う」のはもちろんのこと、「購入・貸出（返却）」も「利用」として捉えて、郵便物（ハガキ・封筒）といった日常的な物も含め、町内を巡るからこそ行える「物流システム導入バス」を計画する。



図表 2-3-5 バスを使った物流システムのイメージ

B：設備の充実

当別ふれあいバスを始めとして、「わかりやすい・利用しやすい・利用したくなる」公共交通を目指し設備の充実を図る。

【①バス停留所及び待合所の整備】

簡素な造りとなっている既存のバス停留所を、デザイン性が高く、わかりやすいバス停留所にする事で、バスに対するイメージアップを図る。

また、雨風や「雪」を防ぐ待合所は、特別豪雪地帯である当別町の利用者にとって必要な設備であり、バス停留所の利用者数も考慮して、設置していく。



図表 2-3-6 既存のバス停留所等

(左：町内／中：スウェーデンヒルズ内／右：町内唯一の待合所)

## 【②デザイン性の高いノンステップバスの導入】

今後訪れる高齢社会においては、容易に乗降可能なノンステップバスは必須であり、また、「使用するバス車両」により、利用頻度が変わるといったデータもあることから、デザイン性の高い車両を導入することは利用促進策としても有効であるため、後述の「ラッピングバス」と併せて、計画的な導入を検討する。



図表 2-3-7 ノンステップバス（日野ポンチョ：ショート）

## 【③情報提供システムの整備】

当別ふれあいバスは、全路線でJR石狩当別駅が起終点となっていることから、同駅内にある自由通路（町道）「当別駅南北連絡線（パブリック通り）」及び同駅南口に隣接している「当別赤れんが6号（ふれあい倉庫）」内で、バス・JRの発着時刻や運行状況などをモニター等で発信する情報提供システムを整備し、利用しやすい公共交通を目指す。



図表 2-3-8 情報提供（案内）のイメージ

## C：利用促進策

「公共交通の利用促進策」は、結果として地域の活性化・地球温暖化防止・高齢者の閉じこもり予防など、多方面にわたり有益な影響をもたらすことから、様々な角度でアプローチしていくことが重要となる。

### 【①モビリティ・マネジメント（MM）※の実施】

当別ふれあいバスの運行開始以来、札幌開発建設部において事業所や地域住民に対し、自動車から公共交通への転換を促す方策であるMMが実施された。

これは、コミュニケーションを中心とした手法を用いて一人ひとりのモビリティ（移動）に対する「意識を変容」させる方策で、近年、国内外において数多く実施されている。

そこで、本町においても、このMMの技術を活用した以下の利用促進策を展開する。

#### ▽①-1 北海道医療大学新入生を対象としたMMの実施

大学生の多くは大学1年生の時に自動車運転免許を取得する傾向が高いとされている。

運転免許を取得し自動車を購入すると、自動車に乗ることが習慣化し、公共交通を利用しなくなる可能性が顕著に高くなることは明らかであり、また、一度身に付いた習慣を変更することは困難とされている。

そこで、本町の北海道医療大学の新入生を対象として、MMを展開する。

具体的な展開手法としては、新入生のオリエンテーション時に公共交通に関する情報を提供するとともに、自動車に関するデメリットの情報（例えば、事故リスク、健康面、自動車コスト等）を提供する。さらに、コミュニケーションアンケートの中で、自動車免許取得について、考えてもらい、自発的な行動変容を期待するものである。

これにより、将来的に過度に自動車を利用する人を減少させ、さらに、公共交通の利用率を向上することが可能になると考えられる。

#### ▽①-2 住民を対象としたトラベル・フィードバック・プログラム（TFP）※の実施

住民を対象に、事実情報提供法と行動プラン法を実施する。

事実情報提供法のツールとしては、後述の「利用促進パンフレット」を用いる。

具体的には、このパンフレットを活用し自動車を利用しない、もしくは公共交通を利用する行動プランを立案いただくようアンケート調査の中で要請する。

#### ※モビリティ・マネジメント（Mobility Management）

一人ひとりのモビリティ（移動）が、社会にも個人にも望ましい方向へ、自発的に変化することを期待する取り組み。

たとえば、過度に自動車を利用する「クルマ中心」のライフスタイルから、電車やバスなどの公共交通や、自転車などの積極的な利用を促すなど、個人とのコミュニケーションを中心に働きかける交通施策。

#### ※トラベル・フィードバック・プログラム（TFP）

モビリティ・マネジメントの代表的なコミュニケーション施策の一種で、個別的なやりとりを通じて、対象者の交通行動の自発的な変容を期待する施策。具体的には、対象者に具体的なアドバイスを実施する“アドバイス法”や路線情報や自動車の情報等を提供する“事実情報提供法”や机上で自動車を利用しない行動を立案していただく“行動プラン法”などがある。





▽④-4 公共交通に関するニュースレターの発行

公共交通に関する事業を進めるにあたり、住民に事業への理解と事業の進捗状況等を適切に説明する必要がある。

そこで、事業実施期間は定期的にニュースレターを発行し、事業への理解と認知度の向上を図る。



図表 2-3-10 ニュースレターの発行の例

【②ノーマイカーデーの実施】

MMと併せて、住民や企業と連携し「ノーマイカーデー」を設定し実施する。

ノーマイカーデー実施日においては通常よりも運賃を緩和する方を計画し、利用するメリットを向上させる。

特に企業においては、あらかじめ協力いただける数社に対し、実施前及び実施後に公共交通を意識付けるアンケートを行い、公共交通利用時におけるメリット・デメリットを調査する。

また、ホームページ等でも同様のアンケートを行い、参加した住民等から意見を募り、公共交通改善の参考とする。

【③ラッピングバス・移動展示（絵画等）】

前述の「デザイン性の高いノンステップバスの導入」同様、特色のあるバス車両はそれだけで興味を引き、利用促進に繋げる効果がある。

バス車両のラッピングは、車両購入より低コストで実現できるため、両施策を計画的に行っていく。

また、利用者（特に小・中学生）がテーマに沿った絵を車内に展示する又は直接車体に描き、一定期間運行するといった方策も利用促進に効果的である。



図表 2-3-11 ラッピングバスの例

【④利用促進パンフレットの作成】

当別ふれあいバスの路線図及び時刻表のほか、目的地までのバスの使い方や、J・Rとの接続例を記載したパンフレットを作成し配布する。



※平成19年度、MM施策の一つとして作成・配布（国土交通省北海道開発局）

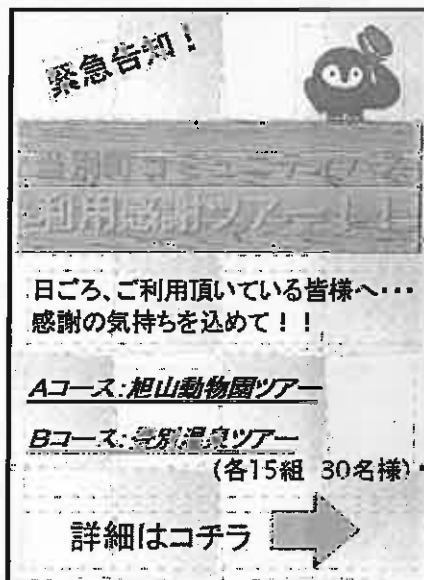
図表 2-3-12 パンフレットの例（左：路線図 右：利用例）

## 【⑤利用感謝ツアー等イベントの実施】

平成18年度に実施した「利用感謝ツアー」は、日常的利用者はもちろん、頻度の少ない利用者にも非常に好評であり、延べ517人から応募があった。

また、ツアー参加者へ行なうアンケートでは、一般に行う場合よりも、公共交通に対する率直な意見が多く寄せられた。

感謝ツアーなどのイベントを企画・実施し、潜在している「利用者予備軍」を発掘させるほか、公共交通へのイメージアップに繋げる。



図表 2-3-13 利用感謝ツアーのチラシとその様子

## 【⑥地域との連携】

商工会や商店街といった「地元」と連携し、利用促進を図る。

たとえば、地元主催のイベント時や、買い物・飲食時に利用することで特典があるなど、前述の「物流システムの導入」と併せて、相乗効果のある方策を検討する。

## 【⑦天ぷら油の回収】

当別ふれあいバスは、冬期を除きほぼ全車両でBDFによる運行を実施している。

運行事業者が自らBDFを製造しているため、軽油に比べコストも安く、また、「環境に配慮した」バス運行となっているため、イメージアップにも繋がっている。

家庭ゴミが有料化となった当別町においては、ゴミであった「使用済み天ぷら油」をバス利用時に回収できるようにし、それを利用しての事を宣伝することで「環境にも家計にも優しいバス」がアピールできる。さらに特典を付加することで、より効果的に利用促進を図ることができる。

## D：その他

## 【①講演会・セミナー等】

地域住民はもちろん、町内における交通関係者や各事業者を対象として、学識経験者による講演会を実施する。

単に「公共交通」だけにとどまらず、環境や健康、今後の生活等多様な話題のあるセミナーを企画する事で、より「公共交通」を身近に感じていただき、そして自分たちで守り育てていく事が重要であるように認識を持ってもらうことが、将来にわたり公共交通を維持していくことと繋がる。



図表 2-3-14 公共交通セミナーのイメージ

## 【②公共交通アンケート】

公共交通に関するアンケートを定期的に行い、過去からの変化、現状と課題、未来への方策を把握・立案し本計画へ反映させる。

## 【③子どもからお年寄りまで、広く利用されるバス】

高齢者等の交通弱者や通学・通勤者に対し、外出が容易になり、快適に移動できる環境づくりを進める。また、人の移動による地域の特性を推進するために、関係各機関と継続して協議を行い、住民に対しても公共交通への積極的な主体的関与を促す。



【参考：当別ふれあいバス「ふれバ」 ロゴ】

#### (4) 中長期的計画の内容

##### A：JRに対する要望

JRに対する要望活動等は、従来、当別町のほか、JR札幌線（学園都市線）沿線及び近郊の5自治体で構成される「札幌線（学園都市線）整備促進期成会」が行っていたが、平成18年度をもって解散となったため、今後、当別町単独で要望活動について検討していく。

##### 【①快速化】

第1部3-(1)で述べているが、JR札幌線（学園都市線）は、札幌圏域の他路線に比べて時間距離が長い。

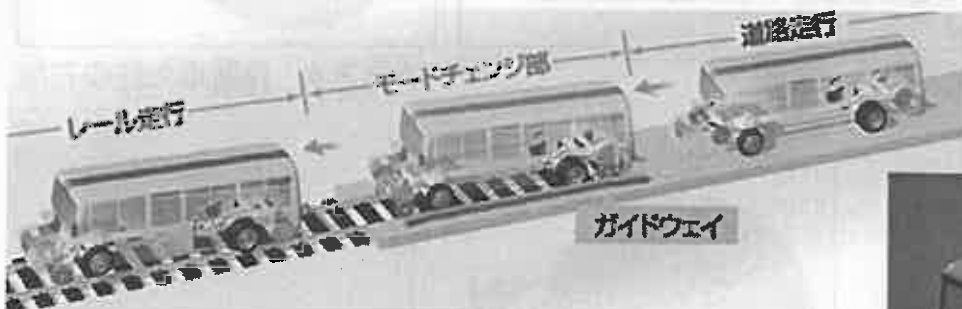
札幌～当別間を30分以内で運行可能になると予想される「快速化」は、利用向上のみならず、地域力の活性化にも繋がるものと考える。

##### 【②DMV】

JR北海道によって開発された、鉄軌道と道路の両走行が可能な「DMV（デュアル・モード・ビークル）」は、抜群の話題性を持った、まさに「夢の乗り物※」である。

低コストでの運用が可能で、レール～道路間が数十秒で乗換可能なDMVは、特に利用客が少ない石狩金沢駅以北の運行に最適であり、また、冬期にたびたび起きる「石狩川鉄橋の不通（あいの里公園駅～石狩太美駅間）」時にも、札幌大橋の運行で対応することが可能となる。

このように、多数のメリットがあるDMVを、協議会では、「バス」の特性を活かして当別ふれあいバスと一体となった計画を模索し、導入に向けての要望を検討していく。



※JR北海道ホームページより引用



図表 2-3-15 DMV

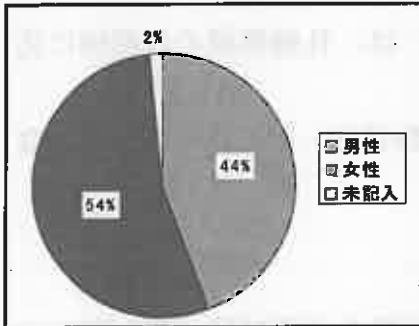
##### B：当別ふれあいバスの本格運行

平成18年度～平成22年度まで計5ヵ年行う実証運行結果を踏まえて、平成23年度からの本格運行を計画し、継続可能なバス運行体制を構築する。

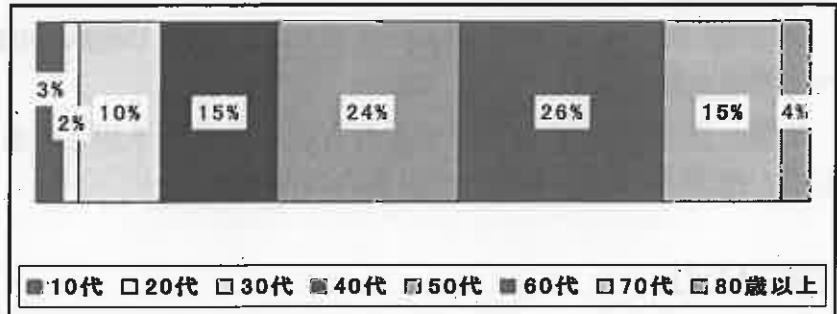
## 参考資料

### 1. アンケート調査グラフデータ（第1部「4. 住民の交通に関する調査」）

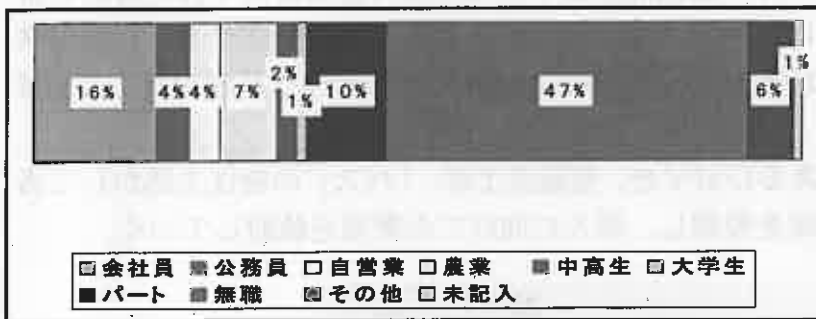
#### ■平成17年度「交通に関するアンケート」調査



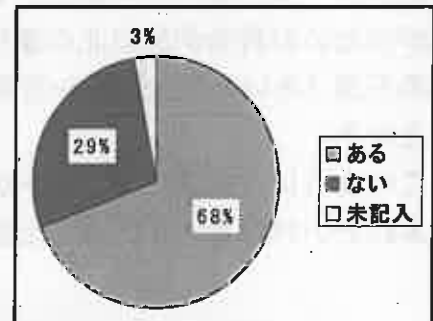
グラフ1 性別



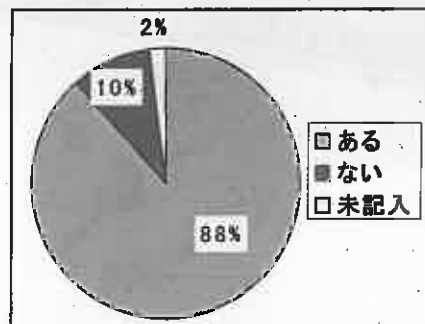
グラフ2 年齢



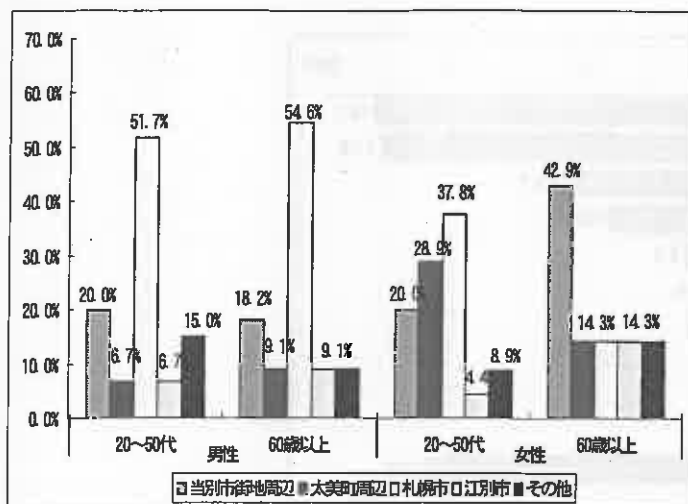
グラフ3 職業



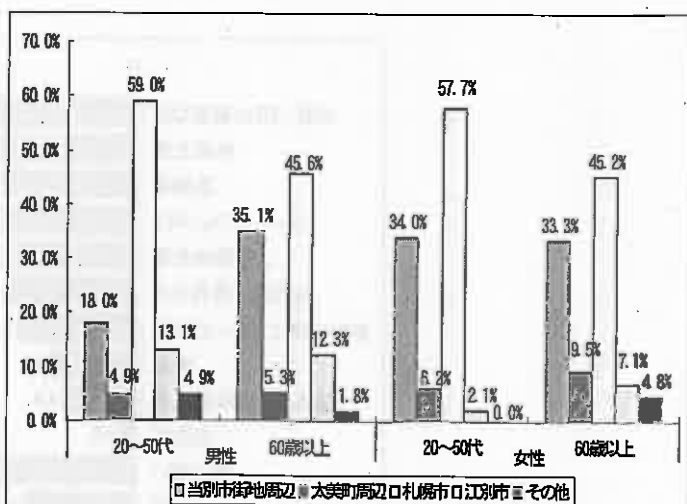
グラフ4 自動車免許の有無



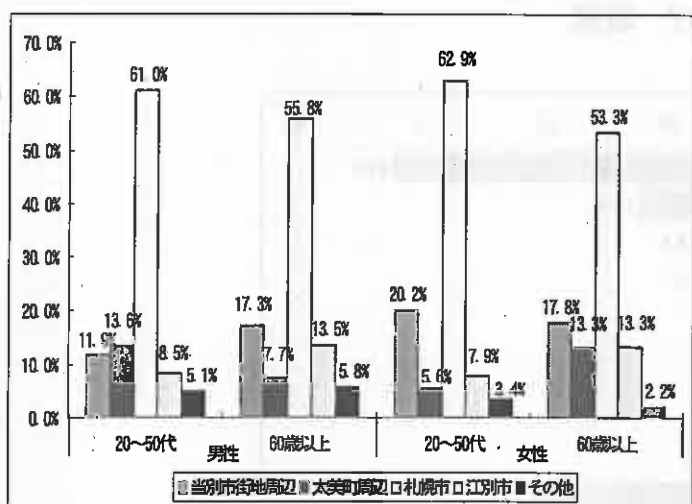
グラフ5 車の保有状況



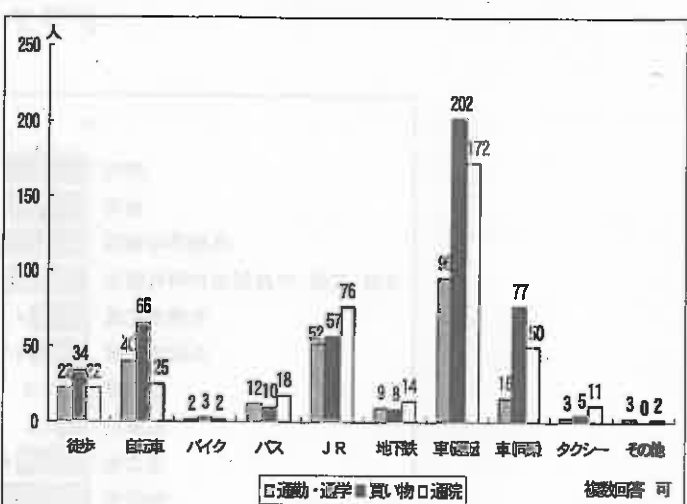
グラフ6 通勤・通学時の目的地



グラフ7 年齢買い物時の目的地

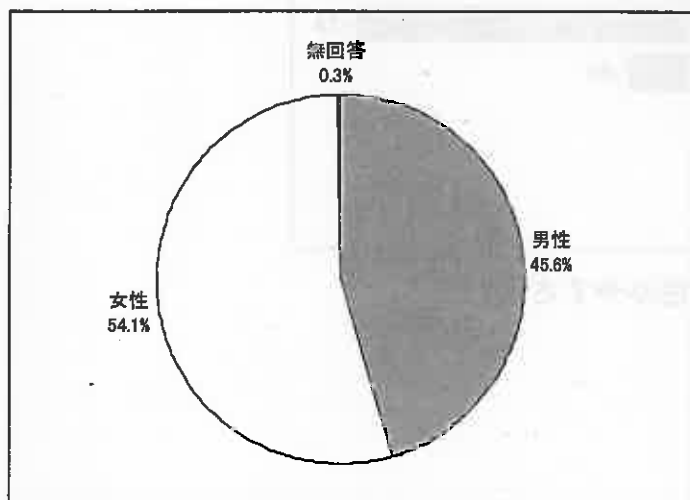


グラフ8 通院時の目的地

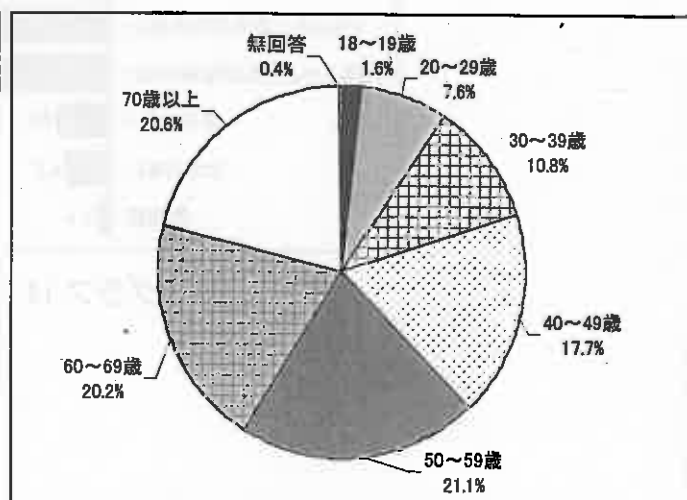


グラフ9 主な交通手段

■平成19年度「当別町住民アンケート」調査

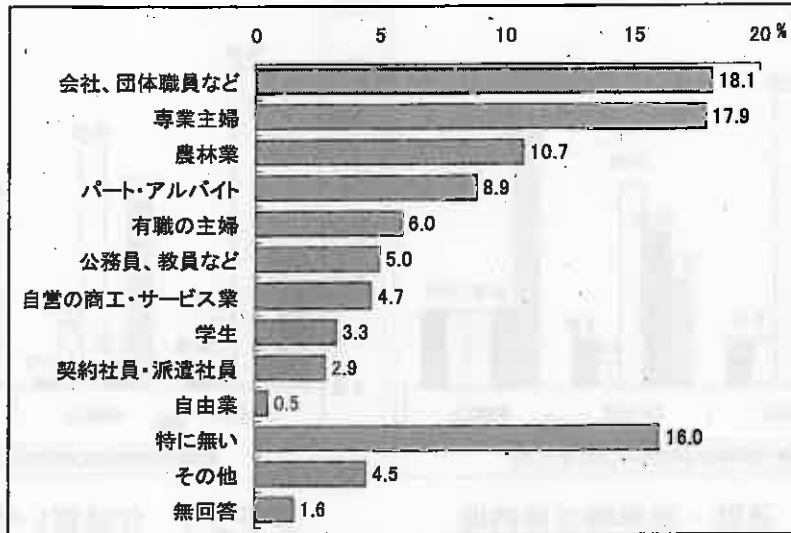


グラフ10 性別

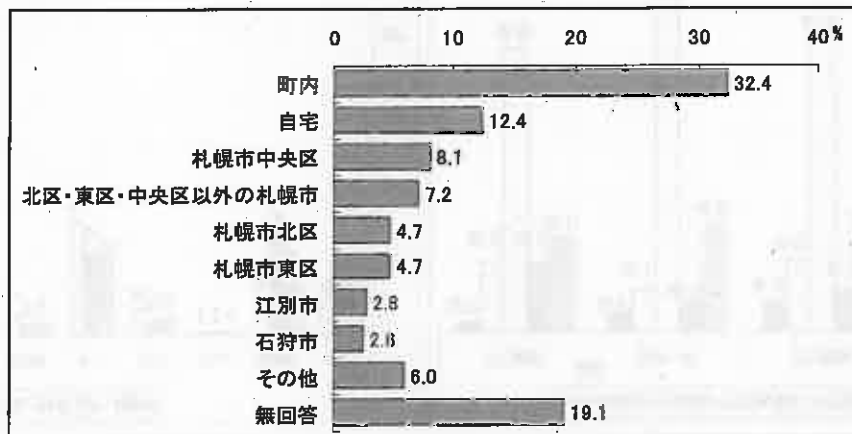


グラフ11 年齢

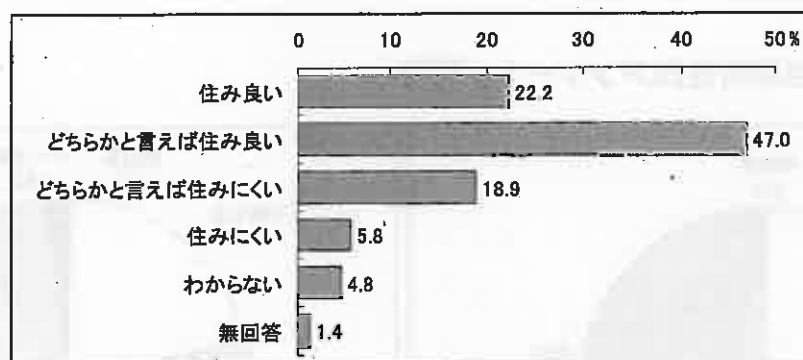




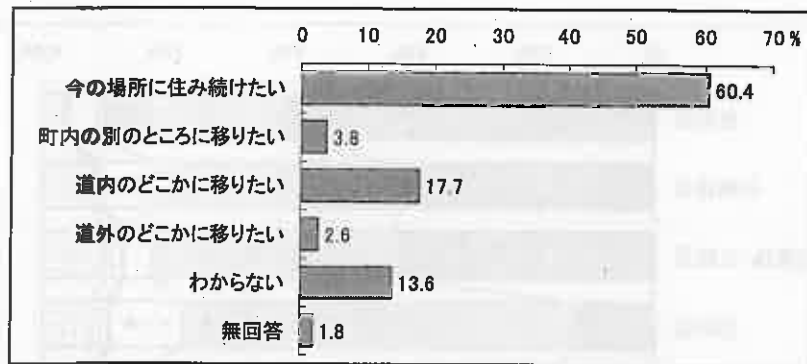
グラフ12 職業



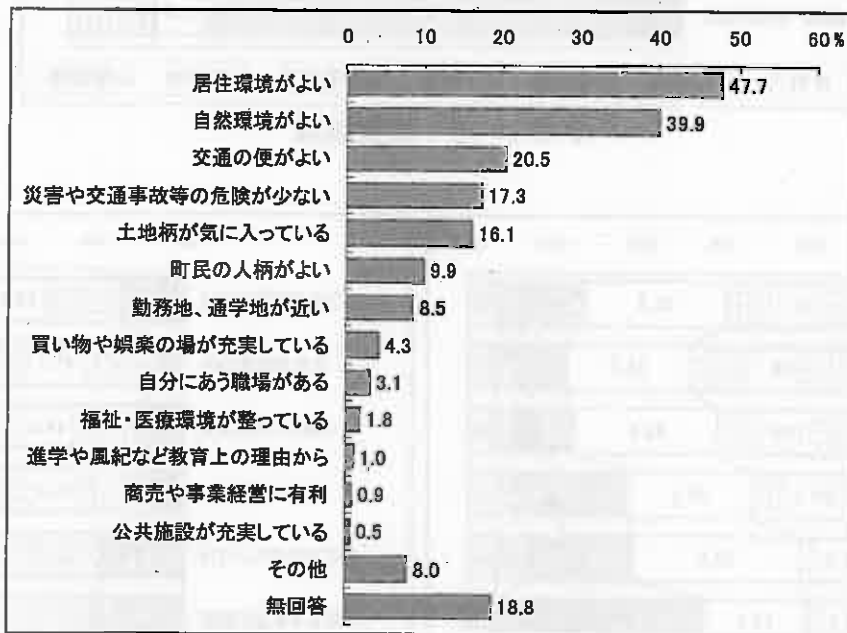
グラフ13 通勤・通学地



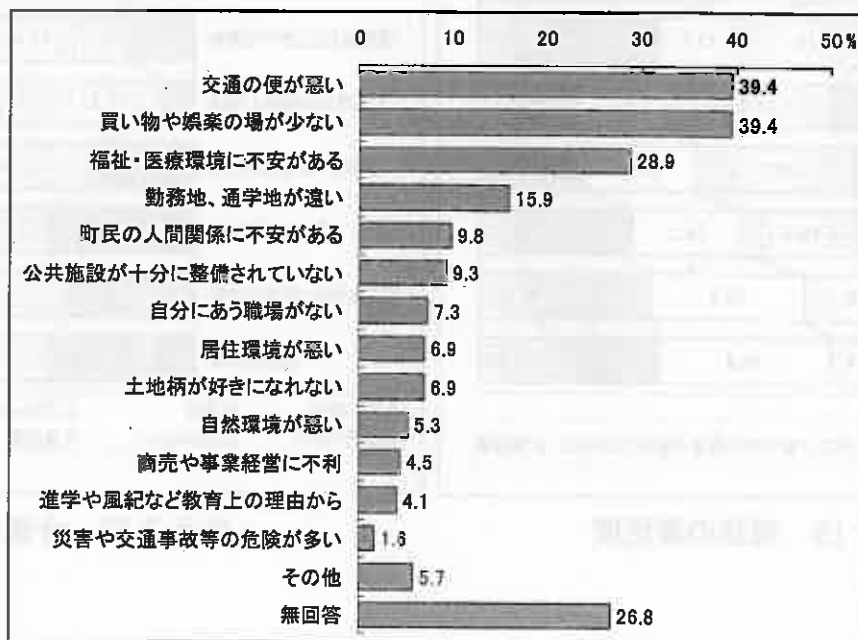
グラフ14 住みやすさ



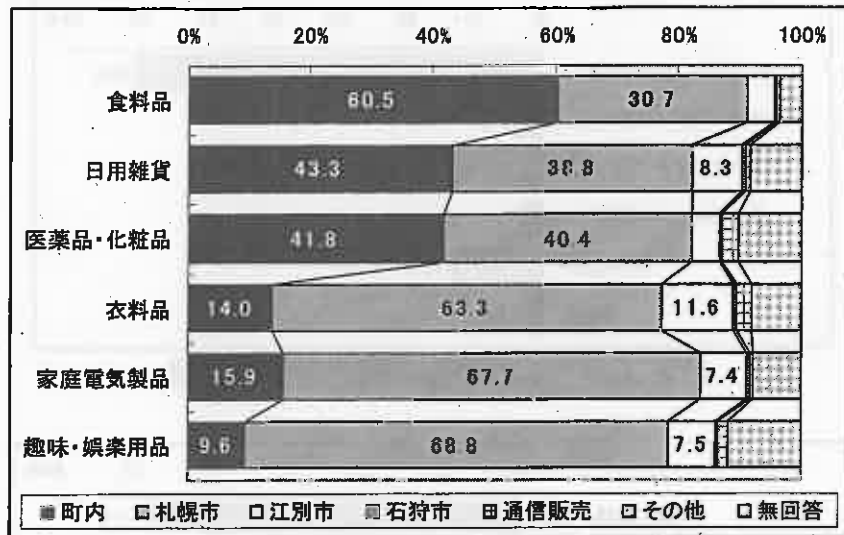
グラフ 15 これからの町内在住の希望



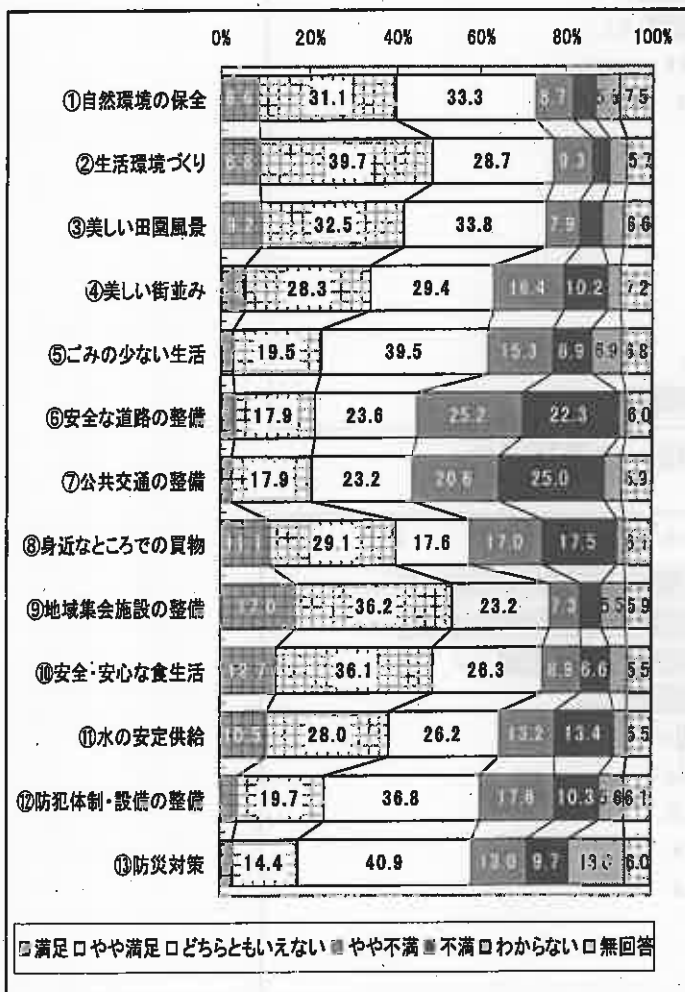
グラフ 16 町内在住への希望理由



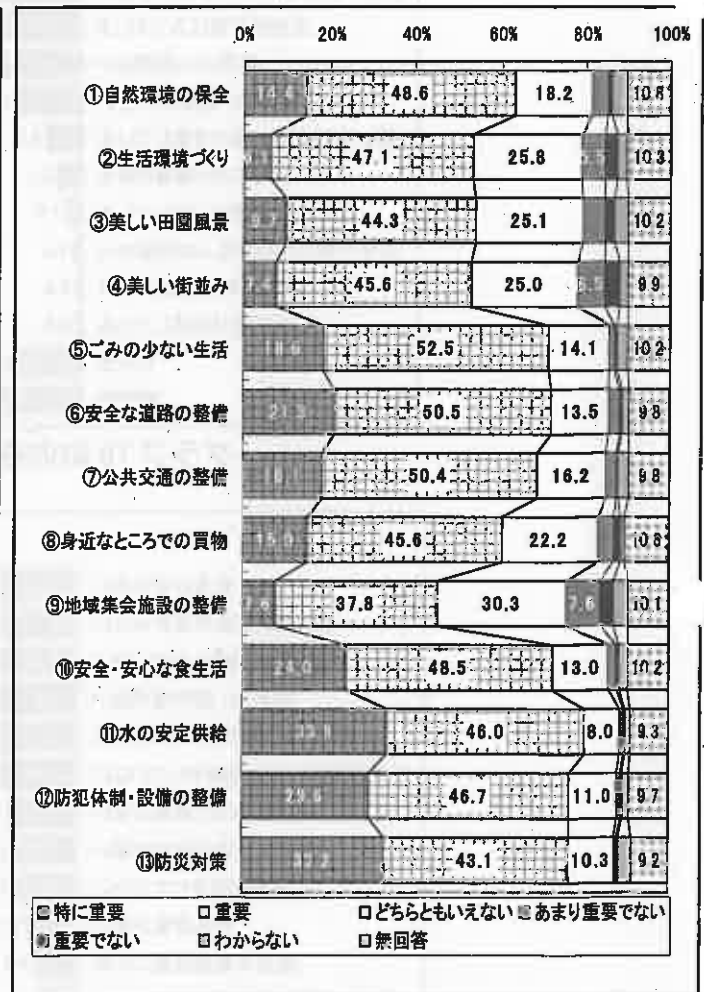
グラフ 17 町外移住への希望理由



グラフ18 購買地域



グラフ19 現状の満足度



グラフ20 今後の重要度

## 2. 検討の経緯

### ■当別町地域公共交通会議の設置

当別町では、道路運送法の改正により、平成18年度及び平成19年度に行った当別ふれあいバスの実証運行事業の結果を受け、平成20年度からの運行について「当別町地域公共交通会議」を設置し協議した。

#### 【①当別町地域公共交通会議委員名簿】

	選任区分	所属・役職	氏名
1	当別町長が指名する者	当別町副町長	近藤 充徳
2		当別町企画部長	増輪 肇
3		当別町福祉部長	武井 久幸
4		当別町教育委員会事務局教育部長	高橋 通
5	北海道運輸局札幌運輸支局長が指名する者	北海道運輸局札幌運輸支局首席運輸企画専門官	今 武
6	北海道石狩支庁長が指名する者	北海道石狩支庁地域興部地域政策課長	平 修
7	札幌地区バス協会の代表	社団法人北海道バス協会専務理事	岩崎 友雄
8	当別町コミュニティバス実証運行事業参加事業者の代表	北海道医療大学経営企画部長	小野 正道
9		北洋交易株式会社グループリーダー	中村 慧一
10		医療法人社団とうべつ整形外科看護師長	北村佳代子
11	一般乗合旅客自動車運送事業者の代表	有限会社下段モータース代表取締役	下段 寿之
12	一般貸切旅客自動車運送事業者の代表	山内建材工業株式会社代表取締役	山内 孝司
13	一般貸切旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転手が所属する団体等の代表	有限会社下段モータース代表取締役常務	下段世志雄
14	地域住民及び団体の代表	当別町行政推進員連絡協議会会長	鈴木 智久
15		当別町PTA連合会会長	安藤 頼孝
16		当別町高齢者クラブ連合会会長	高木 靄美
17		当別町女性団体連絡協議会会長	東谷たまえ
18		当別町ボランティア連絡協議会会長	渡邊ヨキ子
19		当別町商工会事務局長	竹原 陽一
20		当別町社会福祉協議会主幹	藤原 徹
21	オブザーバー	北海道札幌方面北警察署企画規制第二係長	伊東 稔

#### 【②経過等】

	開催日時	主な協議内容等
第1回	平成19年 8月 6日	・地域公共交通会議について ・当別ふれあいバスについて
第2回	平成19年 9月 3日	・回数券の販売について ・路線及びダイヤの一部改正について
第3回	平成19年11月15日	・公共交通活性化再生総合事業について ・平成20年度の運行について
第4回	平成19年12月25日	・地域公共交通会議協議結果報告書(案)について ・公共交通活性化再生総合事業について

■当別町地域公共交通活性化協議会の設置

平成19年10月に施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、当別町地域公共交通総合連携計画を策定し実施するため、前述の当別町地域公共交通会議を包含した「当別町地域公共交通活性化協議会」を設置した（当別町地域公共交通会議は解散）。

【①当別町地域公共活性化協議会名簿】

選任区分	所属・役職	氏名
1	当別町長	近藤 充徳
2	当別町副町長	武井 久幸
3	当別町福祉部長 教育委員会事務局	高橋 通
4	北海道運輸局札幌運輸支局長が指名する者	今 武
5	北海道石狩支庁長が指名する者	平 修
6	札幌地区バス協会の代表	岩崎 友雄
7	札幌開港建設部 札幌道路事務所第2維持課長	尾上 正典
8	関係する道路管理者	矢本 琢也
9	当別町建設部長	滝本 隆志
10	関係する鉄道事業者	蔵田 昇
11	北海道医療大学 経営企画部総務企画課長	長原 利明
12	当別町コミュニティバス実証運行事業 参加事業者の代表	中村 慧一
13	北洋交野株式会社 グループ 医療法人社団とうべつ整形外科 看護部長	北村佳代子
14	一般乗合旅客自動車運送事業者の代表	下段 寿之
15	一般貸切旅客自動車運送事業者の代表	山内 孝司
16	一般貸切旅客自動車運送事業者の事業用目 動車の運転手が所属する団体等の代表	工藤 亘平
17	当別町行政推進員連絡協議会	鈴木 智久
18	当別町PTA連合会	安藤 頼孝
19	当別町高齢者クラブ連合会	高木 観美
20	住民又は利用者の代表 (地域住民及び団体の代表)	東谷たまえ
21	当別町女性団体連絡協議会	渡邊ヨキ子
22	当別町ボランティア連絡協議会	竹原 陽一
23	当別町商工会 事務局 当別町社会福祉協議会 主幹	藤原 徹
24	オブザーバー	(社)北海道開発技術センター 原 文宏

【②経過等】

	開催日時	主な協議内容等
第1回	平成20年 2月 1日	・地域公共交通活性化協議会について ・公共交通活性化再生総合事業について ・地域公共交通総合連携計画(素案)について ・パブリックコメントについて
第2回	平成20年 3月 日	・パブリックコメントの結果について ・地域公共交通総合連携計画(案)について ・平成20年度事業実施計画について ・平成20年度予算について

### 3. 出典

- ・平成 17 年度 当別町バス交通体系調査事業報告書
- ・平成 18 年度 当別町コミュニティバス実証運行事業報告書
- ・平成 19 年度 当別町地域公共交通会議報告書
- ・平成 19 年度 当別町新総合計画策定に関する調査業務報告書

当別町総合計画策定に関する調査業務報告書	
目次	
1. 調査の概要	1
2. 調査の目的	2
3. 調査の方法	3
4. 調査の結果	4
5. 調査のまとめ	5
6. 調査の今後の課題	6
7. 調査の参考資料	7
8. 調査のお問い合わせ先	8
9. 調査の問い合わせ先	9
10. 調査の問い合わせ先	10
11. 調査の問い合わせ先	11
12. 調査の問い合わせ先	12
13. 調査の問い合わせ先	13
14. 調査の問い合わせ先	14
15. 調査の問い合わせ先	15
16. 調査の問い合わせ先	16
17. 調査の問い合わせ先	17
18. 調査の問い合わせ先	18
19. 調査の問い合わせ先	19
20. 調査の問い合わせ先	20

発行 志

発行所 当別町  
〒061-0292 北海道石狩郡当別町白樺町 58 番地 9  
電話 0133 (23) 2330 (代表)  
FAX 0133 (23) 3206 (代表)  
E-mail kikaku@town.tobetsu.hokkaido.jp  
URL http://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/

**当別町地域公共交通総合連携計画**

平成 20 年 3 月

発行 当別町  
編集 当別町地域公共交通活性化協議会  
〒061-0292 北海道石狩郡当別町白樺町 58 番地 9  
電話 0133 (23) 2330 (代表)  
F A X 0133 (23) 3206 (代表)  
E-mail kikaku@town.tobetsu.hokkaido.jp  
U R L http://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/